

グローリー株式会社
2027年3月期 中間期 決算説明資料

2026年11月10日

1

・決算ダイジェスト
・商談トピックス（海外・国内）
・2026中期経営計画の進捗

代表取締役社長　原田 明浩

2

・2027年3月期 中間期 実績
・2027年3月期予想の概要

取締役 IR担当　藤田 知子

[注意事項]

1. 本資料に記載されている、業績見通し等の将来に関する情報は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのような要因としては、主要市場の経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。 また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。
2. 当資料の構成比は、千万円以下を切り捨てた数値を基に算出しております。 なお、増減率につきましては、決算短信と統一しております。

1 決算ダイジェスト

代表取締役社長　原田 明浩

2027年3月期 中間期 決算ダイジェスト

2027年3月期 中間期 結果 ➡ 増収増益

（億円）

	売上収益	前年同期比		営業利益	前年同期比		親会社の所有者に帰属する中間利益	前年同期比	
IFRS(国際会計基準)	1,742	+206	+13.4%	160	+60	+60.3%	106	+48	+83.5%

- **海外市場**は、製品・サービスの販売拡大、保守業務の改善、為替のプラス影響等により**大幅な増収増益**
- **国内市場**は、部品入手難による販売延伸があったものの、需要は好調を維持しており、売上収益は**増収**
  営業利益については、遊技市場の減収に加え、固定費増加等により**減益**

2027年3月期 中間期 決算ダイジェスト

2027年3月期 通期 予想 ➡ 増収増益 予想 （予想値は前回公表値から変更なし）

（億円）

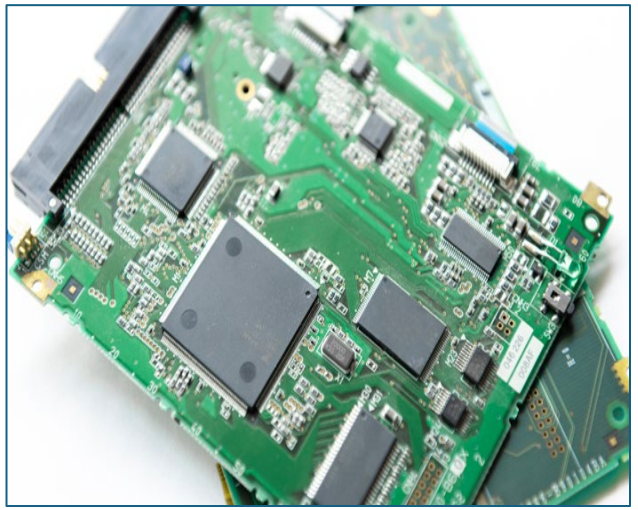
	売上収益	前期比		営業利益	前期比		親会社の所有者に帰属する当期利益	前期比	
IFRS(国際会計基準)	3,600	+205	+6.0%	320	+23	+7.6%	200	+47	+30.0%

- **売上収益は**、新紙幣発行による特別需要前の水準(約2,200億円)を大きく上回り推移
- **海外市場は、**需要は旺盛であり、部品入手難により一部販売に影響あるものの、**8期連続で過去最高売上収益を更新見込み**
- **国内市場は、**金融、流通・交通については特別需要の反動減から売上回復を見込むも、営業利益については遊技市場の減収が大きく、加えて固定費増加等により**減益見通し**

リスク ： 半導体関連 部品入手難による業績への影響

入手困難部品

プリント基板 、メモリ 、ストレージ 、CPU 等



影響①：部品価格上昇による 原価への影響

●**今年度の部品価格上昇の影響**（現時点予想）≒ **約15億円/年の原価アップ**見込みで
この原価アップ額については **業績予想に織り込み済み**

影響②：部品入手難による 売上収益／利益への影響

●**顧客の要求日程に対し、一部機種で生産遅延があり、販売／納入延伸が発生**
この影響額については、通期で**売上収益▲約49億円 、利益▲約24億円**の見込み
このマイナス影響については **業績予想に織り込み済み**

セグメント	売上収益	営業利益
海外市場	▲25億円	▲14億円
金融市場	▲20億円	▲８億円
流通・交通市場	▲４億円	▲２億円

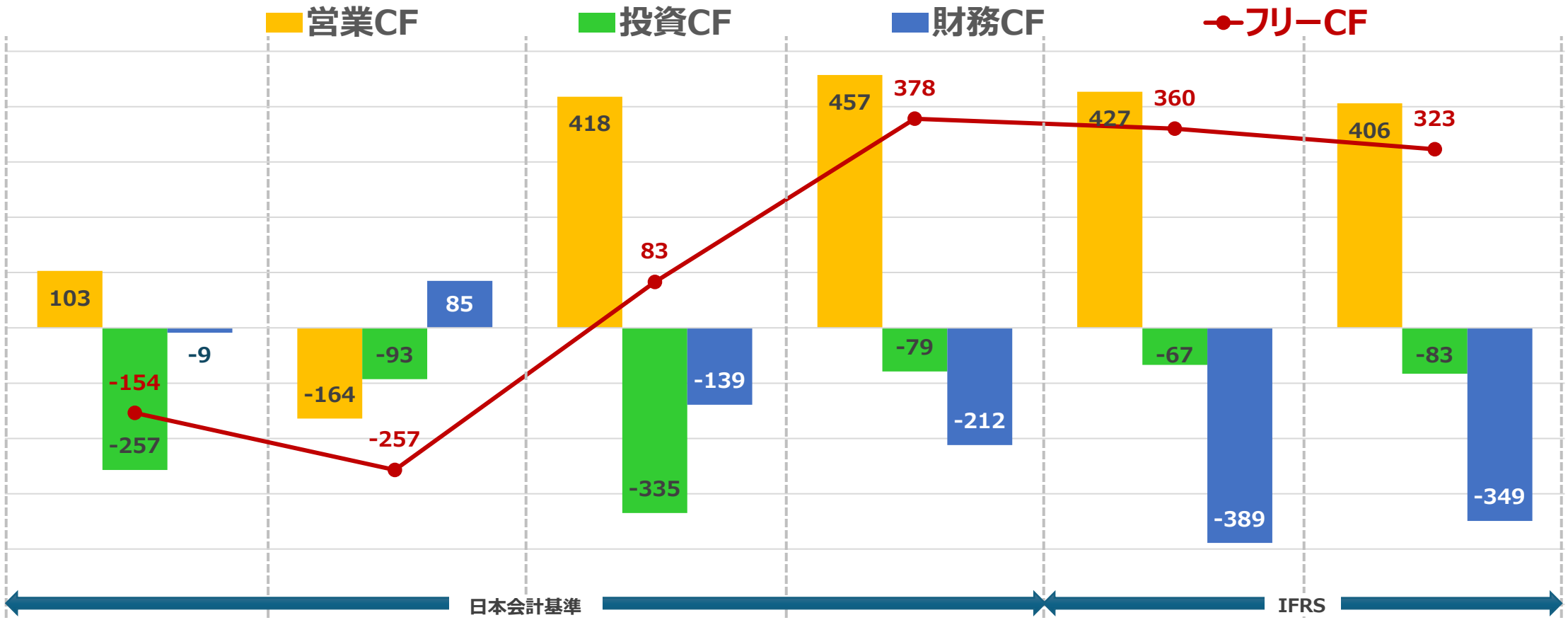
なお、各種対応策により、
今期末には解消見込み

年間業績予想

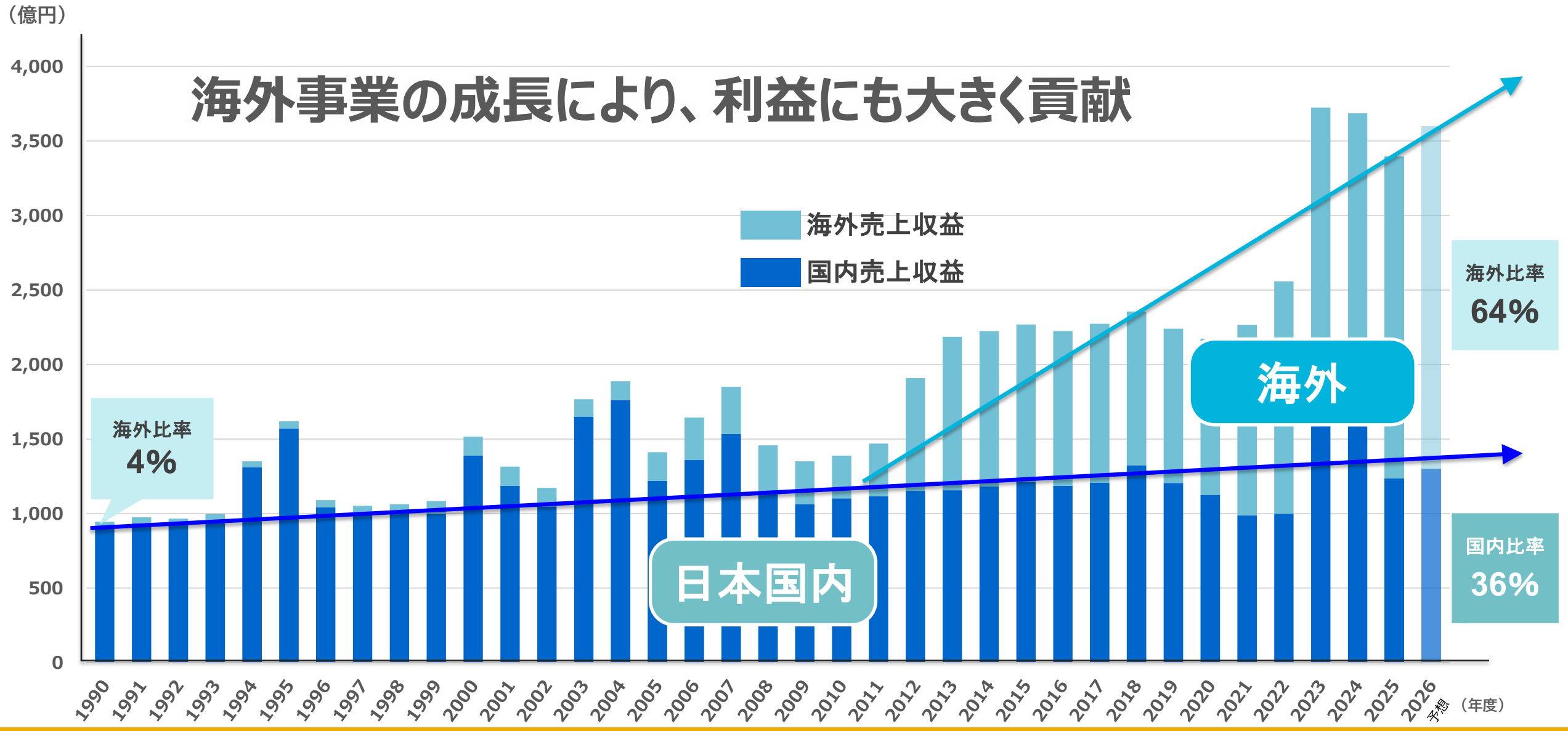
・部品価格上昇による原価アップ(▲)
・部品入手難による販売影響(▲)
・為替レートの見直し(＋)
これらを織り込んだ上で、
通期の連結業績予想は
据え置いております

キャッシュ・フロー

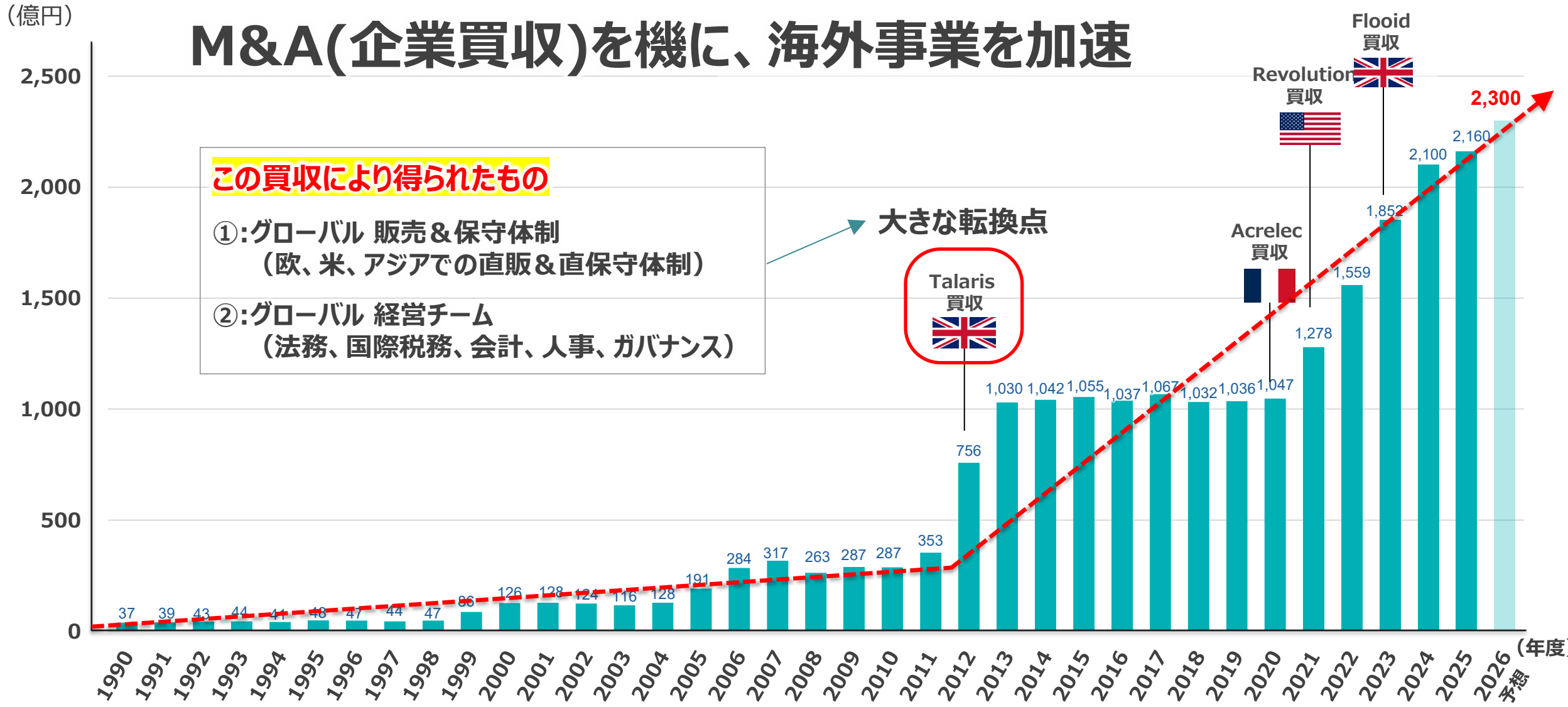
安定してキャッシュを稼ぐことができる経営状態を継続



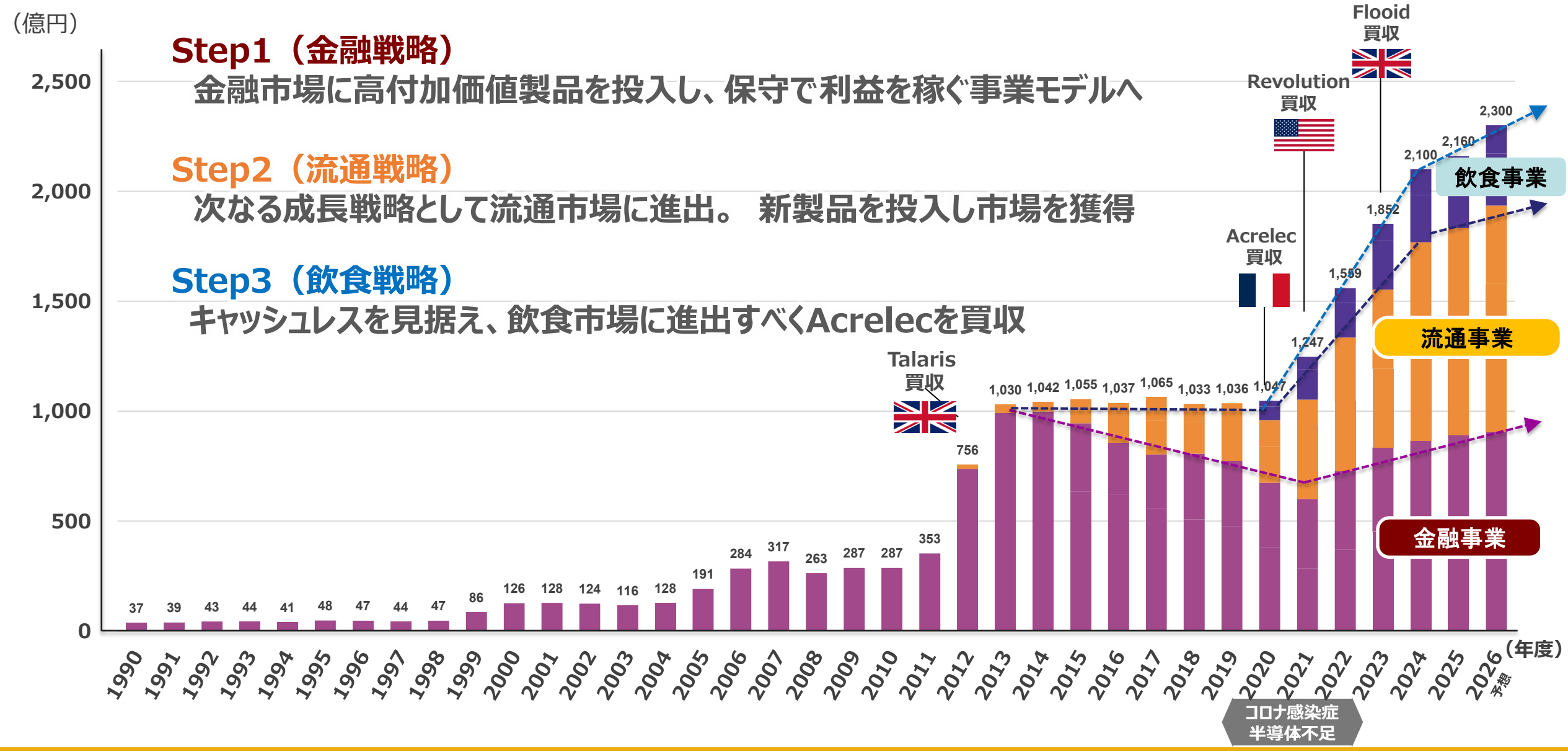
日本国内事業を基盤として、海外事業が大きく成長



海外事業の売上収益


（億円）
M&A(企業買収)を機に、海外事業を加速
この買収により得られたもの
①:グローバル 販売＆保守体制
（欧、米、アジアでの直販＆直保守体制）
②:グローバル 経営チーム
（法務、国際税務、会計、人事、ガバナンス）
大きな転換点
Talaris 買収
Acrelec 買収
Revolution 買収
Flooid 買収
2,300
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
37 39 43 44 41 48 47 44 47 86 126 128 124 116 128 191 284 317 263 287 287 353 756 1,030 1,042 1,055 1,037 1,067 1,032 1,036 1,047 1,278 1,559 1,852 2,100 2,160
1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026予想
（年度）

海外成長戦略　（金融 → 流通 → 飲食）



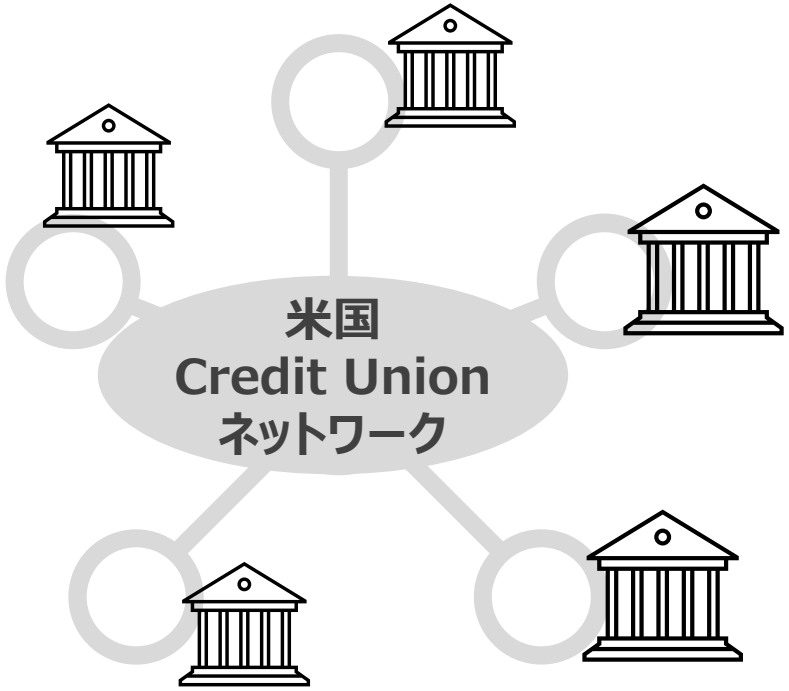
海外市場の商談トピックス

①金融　　セルフ型新製品
②リテール　　大口商談
③Acrelec社　ソリューション拡大

①金融　顧客操作型のセルフ型新製品投入（米国）

・来店客による「セルフ操作の製品」を銀行のロビーに設置
・製品の現金処理操作は顧客自身が行い、銀行員はセールス活動にシフト





当製品を米国銀行協会のネットワークに接続できたことが最大のポイント

米国口座を持っている顧客は、ネットワークに加盟している他の金融機関においても、Teller Conciergeを通じて各種取引が可能になる

セルフ型新製品　<Teller Concierge>

- 来店客が操作するため、少人数で効率的な店舗運営を実現
- ATMでは対応できない大口の入出金、小切手の入金・現金化、両替、公共料金の支払い、送金などに対応

①金融　顧客操作型のセルフ型新製品投入（英国）

・Lloyds銀行(英国)では金融包摂を推進

※金融包摂
すべての人が適切な金融サービスを安心して利用できる状態

・店舗削減の代用として、当製品を採用することで銀行業務を継続



Lloyds Bankとは

- 展開地域　英国
- 創業　1765年
- 支店数　約600店
- 利用者数　約2,800万人

（出典：Lloyds Bank Annual Report 2025）

- リモートモニタリングシステム UBIQULAR™ を接続し、運用状況を監視
- OneBanx社（当社グループ会社）が提供する金融シェアードサービスプラットフォームを採用

②リテール　大口商談（米州）

A社：
大手ホームセンター

店舗の現金管理厳正化を目的に、バックオフィス向け売上金入金機 約340台を受注



B社：
大手ハイパーマーケット

米国での受注に続き、メキシコにおいてもバックオフィス向け売上金入金機 約450台を受注し納入開始



C社：
大手ディスカウントストア

バックオフィス向け紙幣入出金機 約1,200台を受注し、納入完了



米州全体において、業務効率化・現金処理の厳正化ニーズの高まりを受け、バックオフィス向け製品への引き合いが増加

②リテール　大口商談（欧州）

D社：スーパーマーケット

バックオフィス向け売上金入金機 約150台を納入し、下期も継続



E社：スーパーマーケット

フロントオフィス向け売上金入金機 約470台を納入完了



F社：ハイパーマーケット

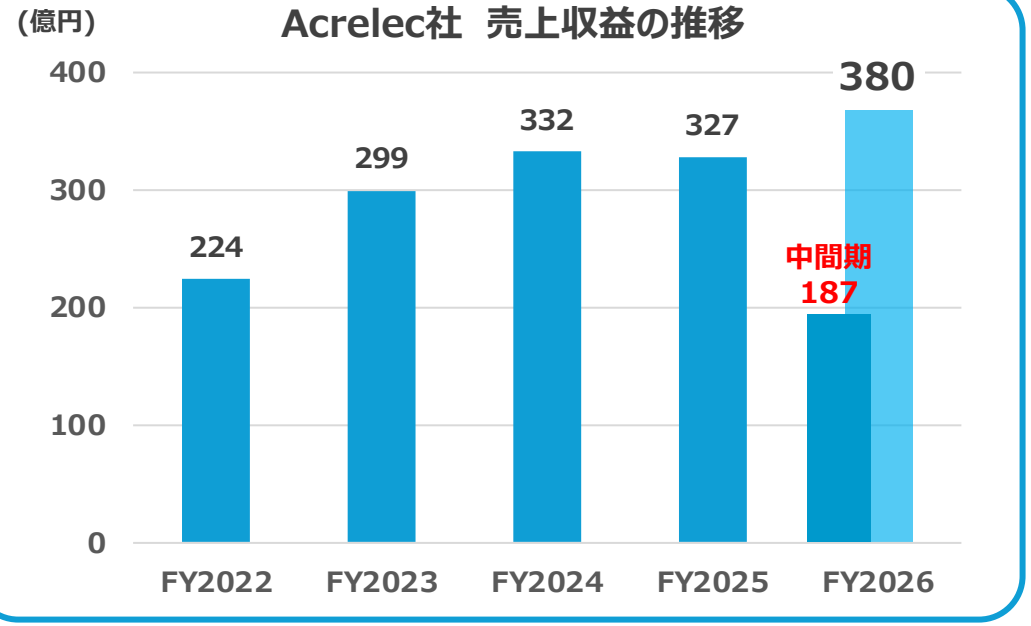
フロント向けレジつり銭機 約350台を納入し、下期も継続



新規導入・更新需要を受けたレジつり銭機および
バックオフィス向け売上金入金機へのニーズが堅調

③Acrelec社　ソリューション拡大

ソリューションの多角化により、業績が復調



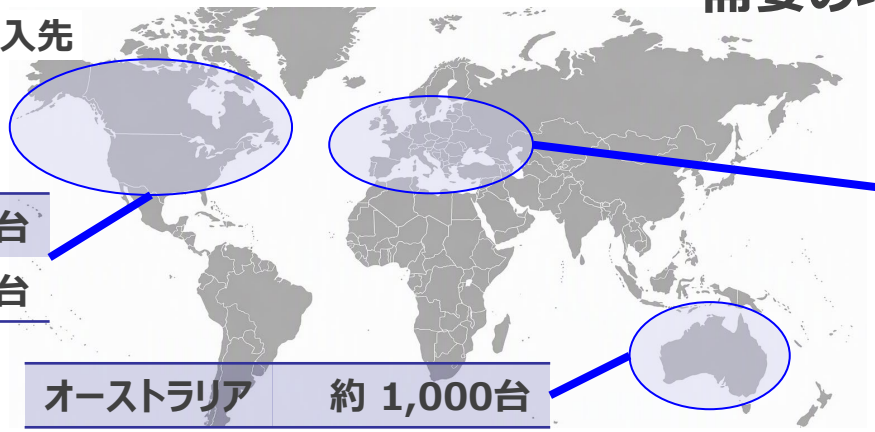
売上収益の底支えを担う 詰め間違い防止システム「Double-Check」



Double-Check
AI搭載の重量スケールをPOS連携

コロナ禍後のライフスタイルの変化によるデリバリー・テイクアウト需要の増加を受け、ニーズ拡大 ➡ **販売累計1万台を突破**

Double-Checkの主な導入先



アメリカ	約 2,000台
カナダ	約 400台
オーストラリア	約 1,000台

イギリス	約 1,600台	イタリア	約 300台
フランス	約 1,500台	ポーランド	約 350台
ドイツ	約 1,500台	ウクライナ	約 200台
スペイン	約 500台		

引き続き、順調な拡大を見込む

国内の商談トピックス

①ファミリーマート向けレジつり銭機（リテール市場）
②警備輸送会社との協業ビジネス（リテール市場）
③非現金　れぽこれ！（リテール市場：SC）
④非現金　待たずにラク～だ（リテール市場：病院）
⑤非現金　TOFREE（飲食市場）

①ファミリーマート向けレジつり銭機（リテール市場）





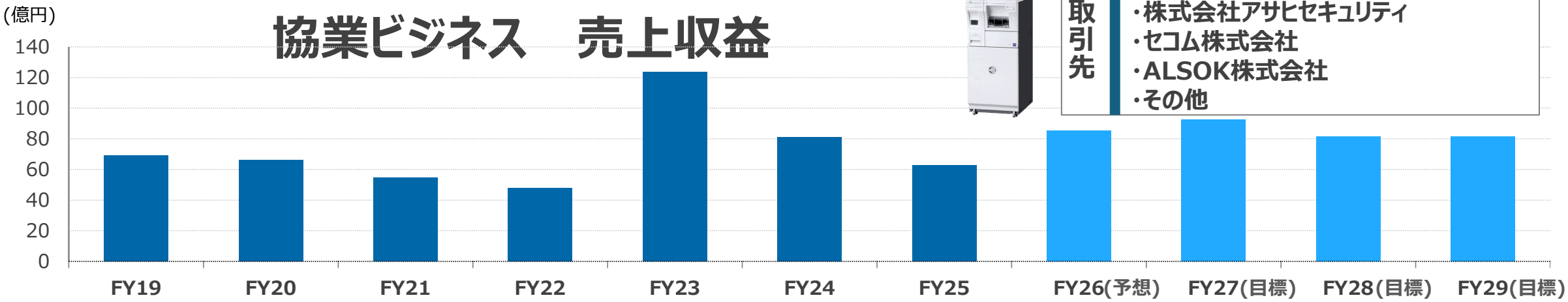


株式会社ファミリーマートは、2026年9月から全国約16,500店舗を対象に、当社のレジつり銭機を搭載した「新型POSレジ」の本格導入を開始。

2027年2月末までに全店での導入完了を目指す。

出典：株式会社ファミリーマート　ニュースリリース

②警備輸送会社との協業ビジネス（リテール市場）



取引先
- NXキャッシュ・ロジスティクス株式会社
- 株式会社アサヒセキュリティ
- セコム株式会社
- ALSOK株式会社
- その他

グローリーの技術と警送会社の運用力を組み合わせ、店舗に提供するソリューションの幅を広げる取り組み

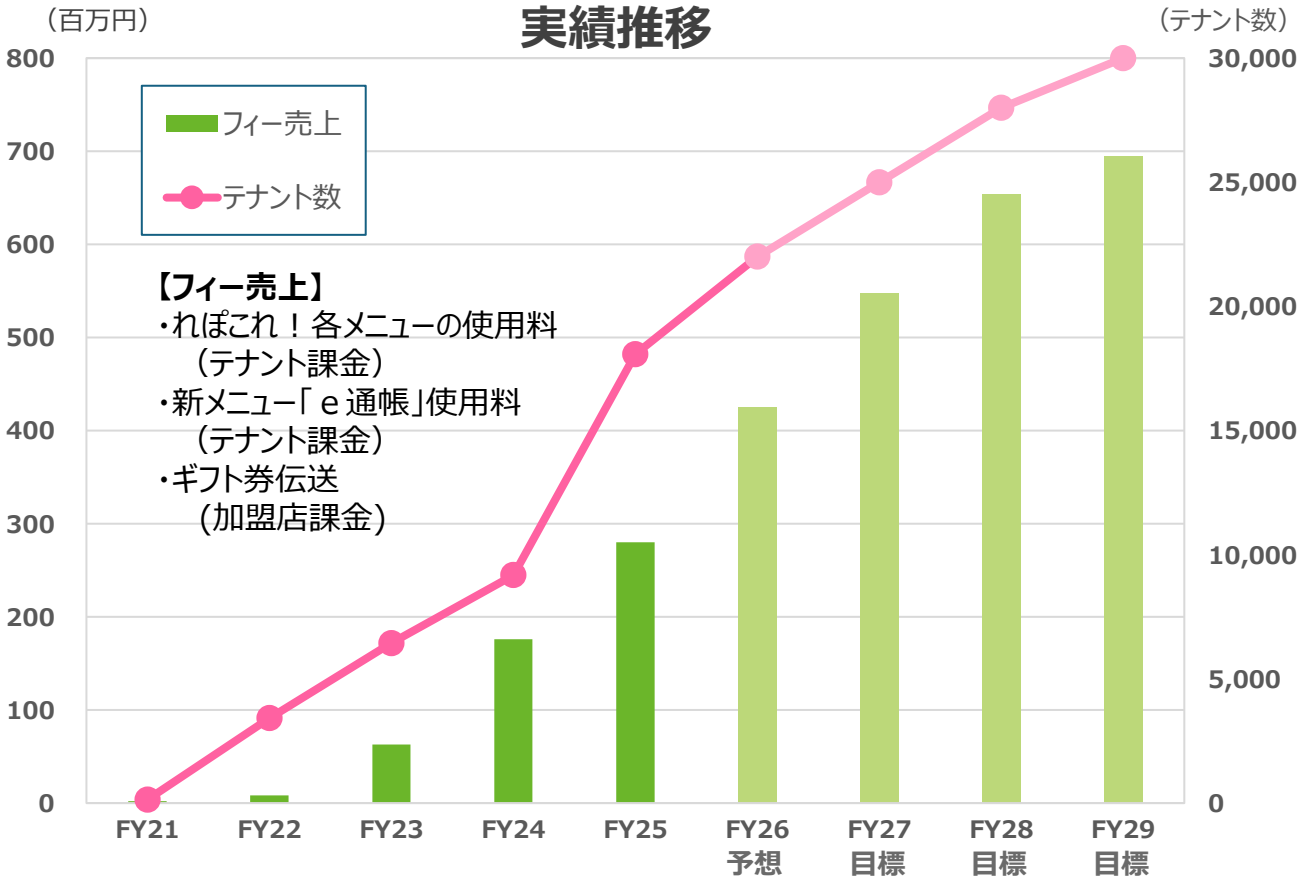
お客様の課題	ソリューション	販売体制	実　績（事例）	ポテンシャル
店舗業務の効率化	売上金入出金機	警備会社×グローリー	・アコーディアゴルフ導入（保有コース172） ・PGM受注（保有コース149）	全国のゴルフ場 約2,150
自治体の収納業務	税公金ステーション		自治体への ・設置台数120台 ・設置個所85か所	全国の自治体数 約1,740

③非現金　れぽこれ！（リテール市場）

れぽこれ!

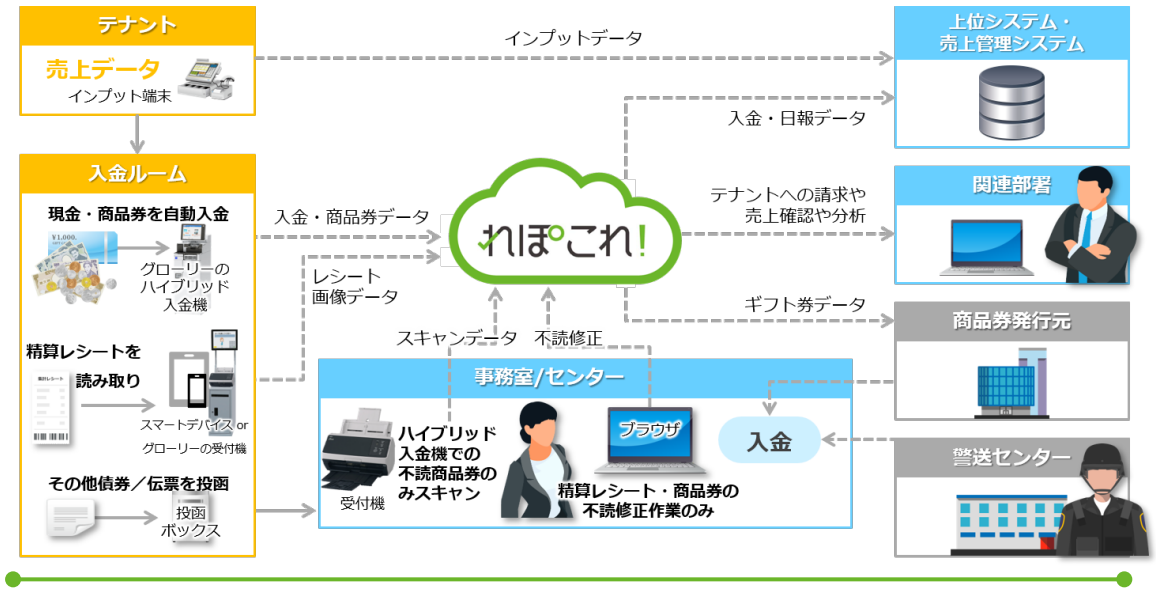
ショッピングモール等、商業施設内の精算業務を自動化・効率化するシステム

実績推移



【フィー売上】
・れぽこれ！各メニューの使用料
　（テナント課金）
・新メニュー「ｅ通帳」使用料
　（テナント課金）
・ギフト券伝送
　（加盟店課金）

システム構成



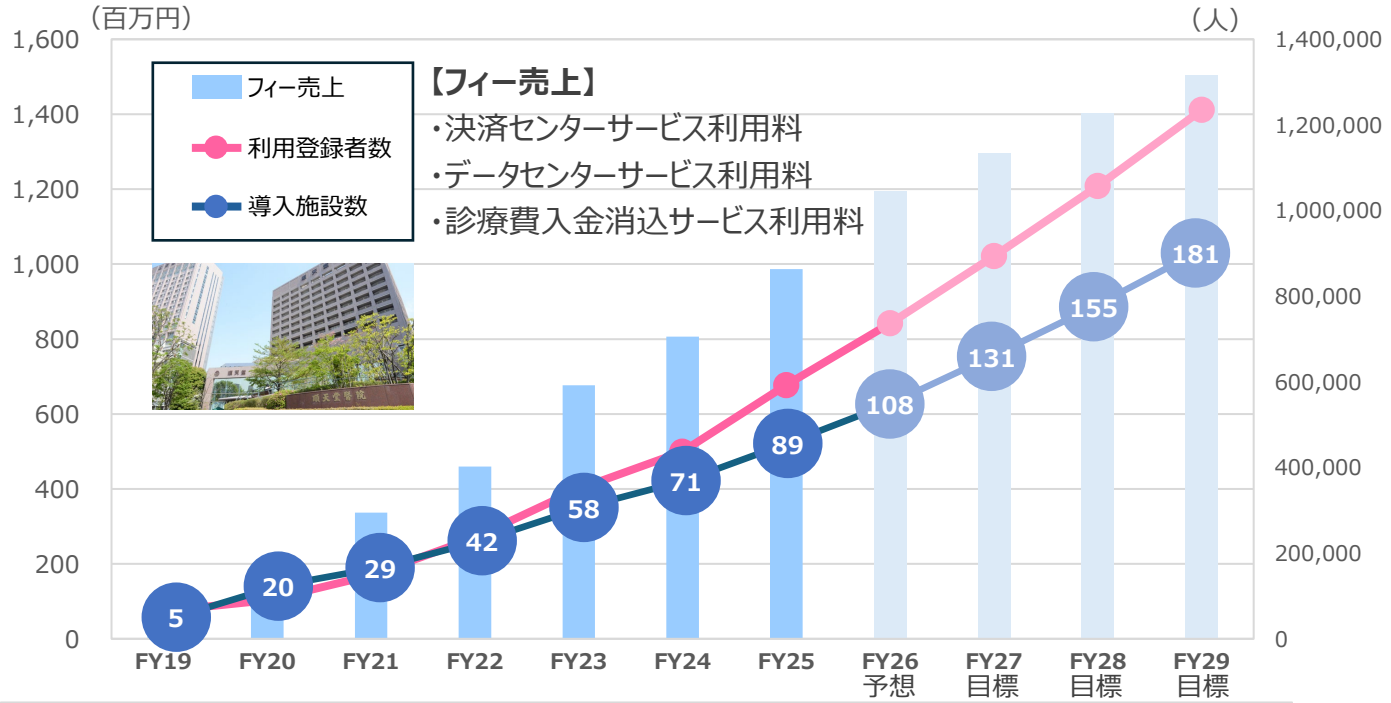
【強み】
レシートも、商品券も、現金もトータルで実施できるのは当社のみ
市場での評価は高く、シェアは No.1

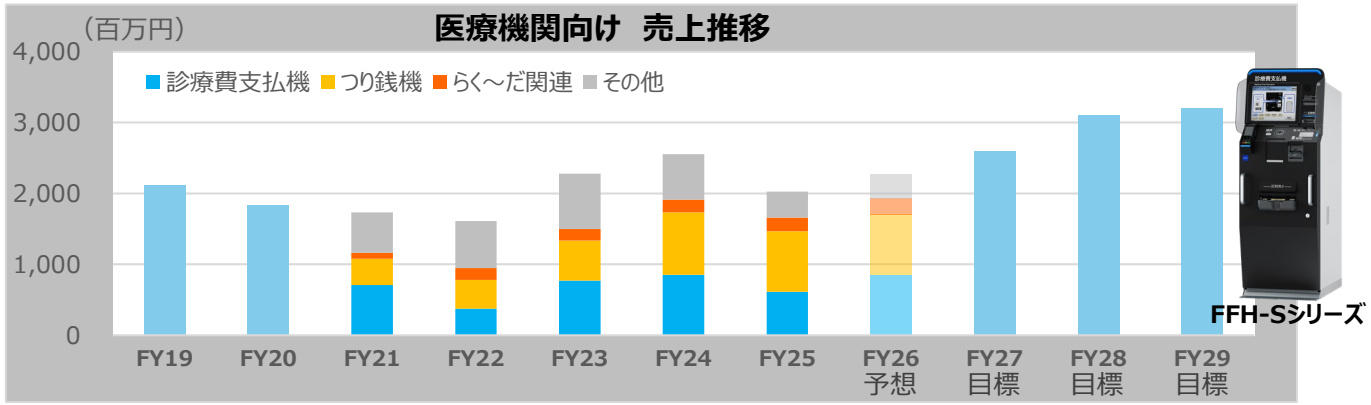
【市場動向】
スーパーや給食業界など、ショッピングセンター以外の業態への展開も模索

④非現金　待たずにラク～だ（リテール市場：病院）

待たずにラク～だ

医療費後払いシステム：病院情報システムと連携して、患者の医療費を後日クレジット決済するサービス





FFH-Sシリーズ

利用概要

患者は事前に、専用Webサイトで「クレジットカード」を登録しておくことで、受診当日は「診察券のみ」で受診し、診療費は後日自動決済
ラク～だ利用における「領収書／診療明細書」は、後日再来院時に専用端末から患者自身で診察券を使用し受取り可能

強み

・病院情報システム連携による高い運用性
　医事会計システムとの連携により、入金消込自動化、領収書・明細書発行対応、修正会計対応、入院・高額医療対応など、病院実運用まで考慮した仕組み
・顧客基盤
　全国大規模病院の診療費支払機導入実績の顧客基盤
・利用率向上を前提とした設計
　「登録簡素化、代理登録対応、手持ちクレジットカード利用など」により、高齢者を含めた幅広い層の利用が可能

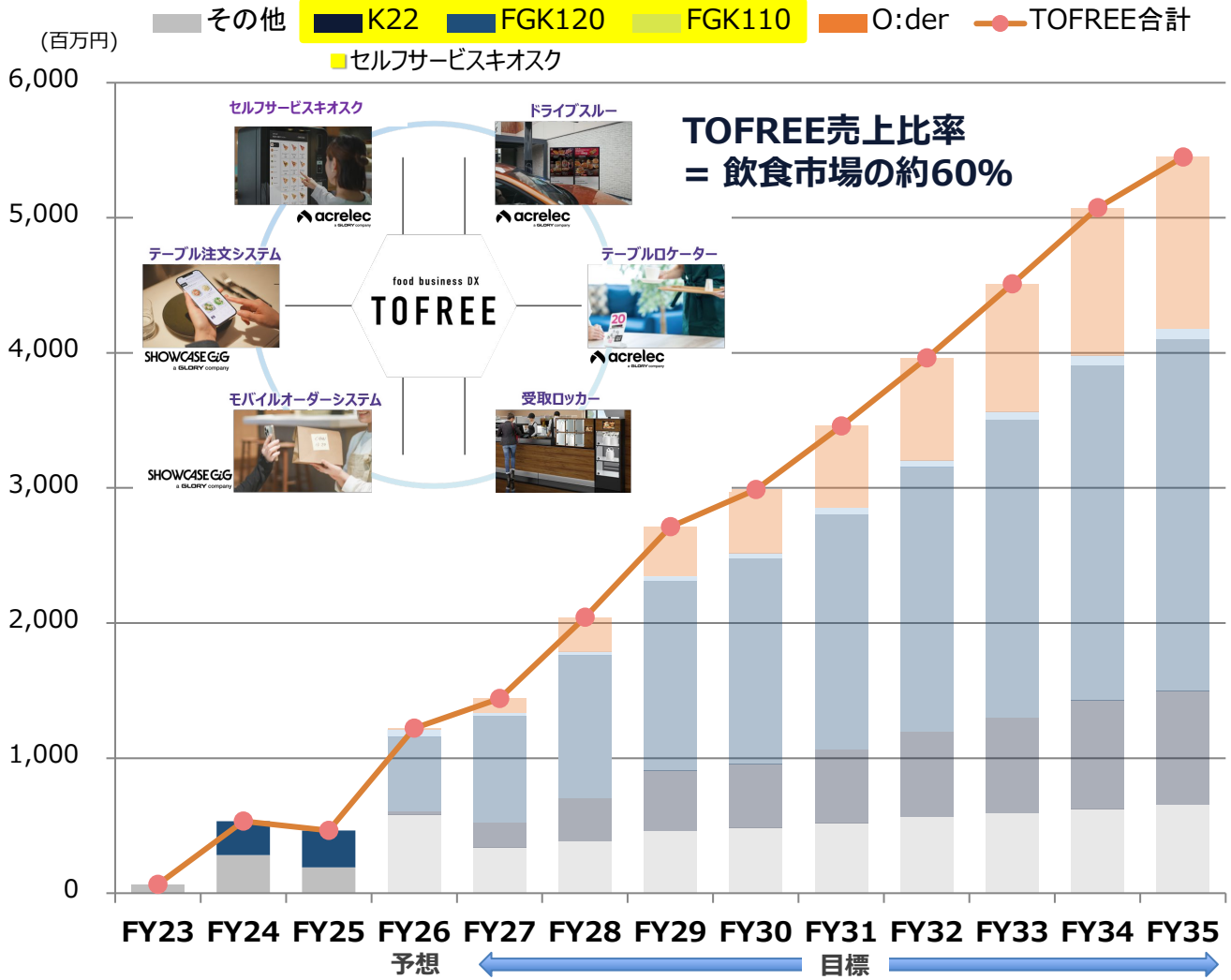
市場動向

医療費後払い市場は拡大が続く一方で競争も激化。
グローリーは診療費支払機の顧客基盤と電子カルテベンダーとの連携力を活かし、後払いサービスを中核とした病院の外来業務全体を効率化する事業の拡大を目指す

⑤非現金　TOFREE（飲食市場）

food business DX

TOFREE セルフサービスキオスクを中心としたソリューションで事業を拡大



飲食市場向けソリューション

❶ ハードウェア（キオスク･券売機･つり銭機）

- 飲食市場への面展開の起点
- K22等、さらなるラインアップ増強で競争力強化


FGK


K22

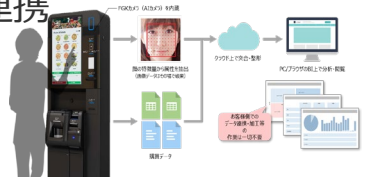
❷ ソフトウェア（O:der / SaaS）

- リカーリング収益の柱
- ハード導入を起点にO:der （モバイルオーダー）契約で積み上げ、リカーリングモデル拡販

O:der Platform
SHOWCASE GiG a GLORY company

❸ データ分析（TOFREE BI＋カメラ）

- キオスクデータの分析・可視化＋カメラ連携
  店舗別に、性別、年代、購入傾向、
  時間帯分析、メニュー分析などができ
  将来のデータビジネスにつなげる



③非現金　TOFREE（飲食市場）

food business DX

TOFREE 導入事例





株式会社たねや・株式会社クラブハリエ　ラコリーナ近江八幡様
FGKシリーズを導入





羽田空港第1ターミナル新フードコート「Sora chika」様
オープンに伴い、DX化を支援（FGKシリーズ等を導入）





つじ田　様
FGKシリーズを導入　３台、３店舗





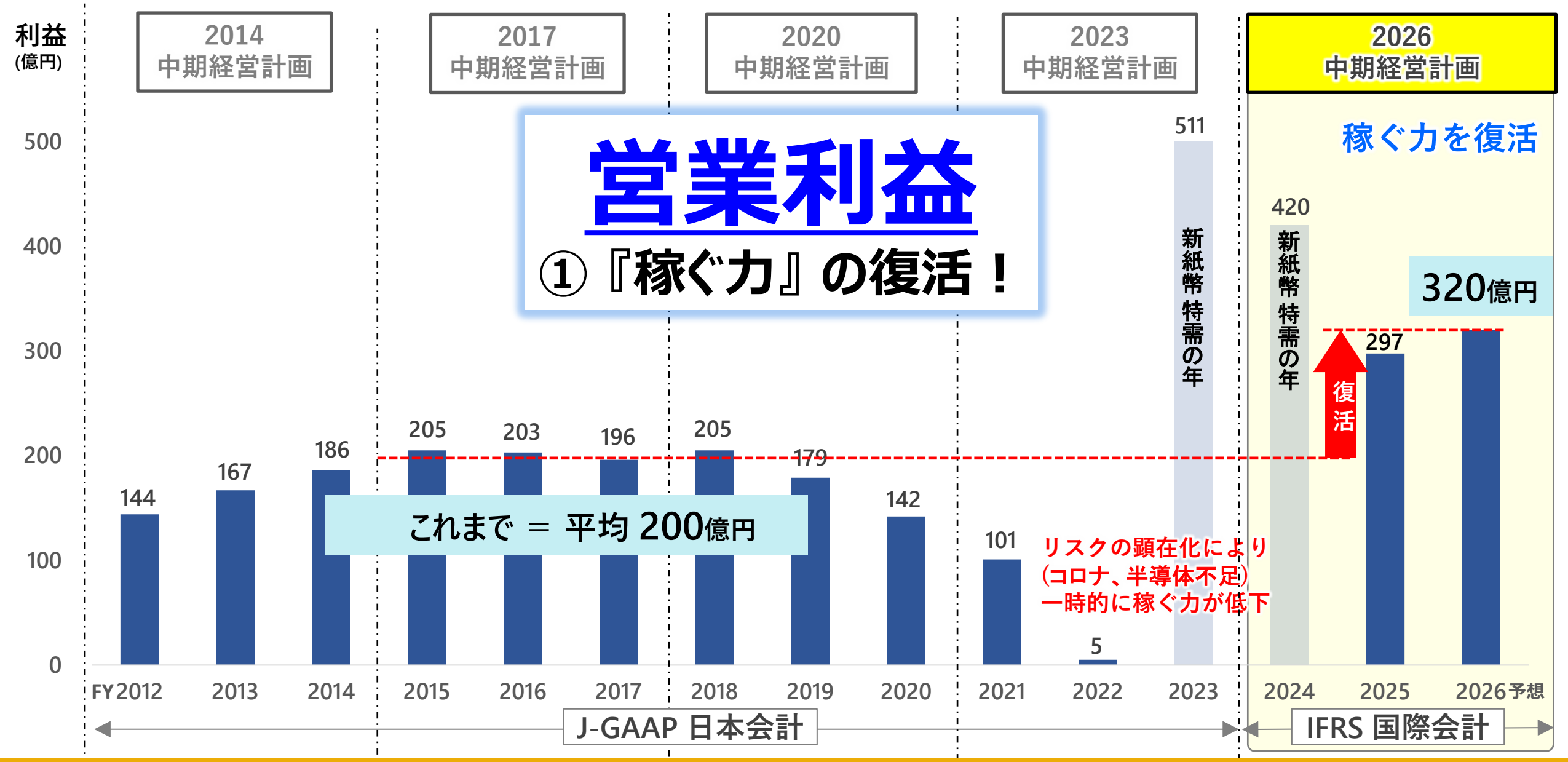
HUB（羽田空港第2ターミナル店）様
テーブルロケーターを導入

2026中期経営計画のKPI進捗

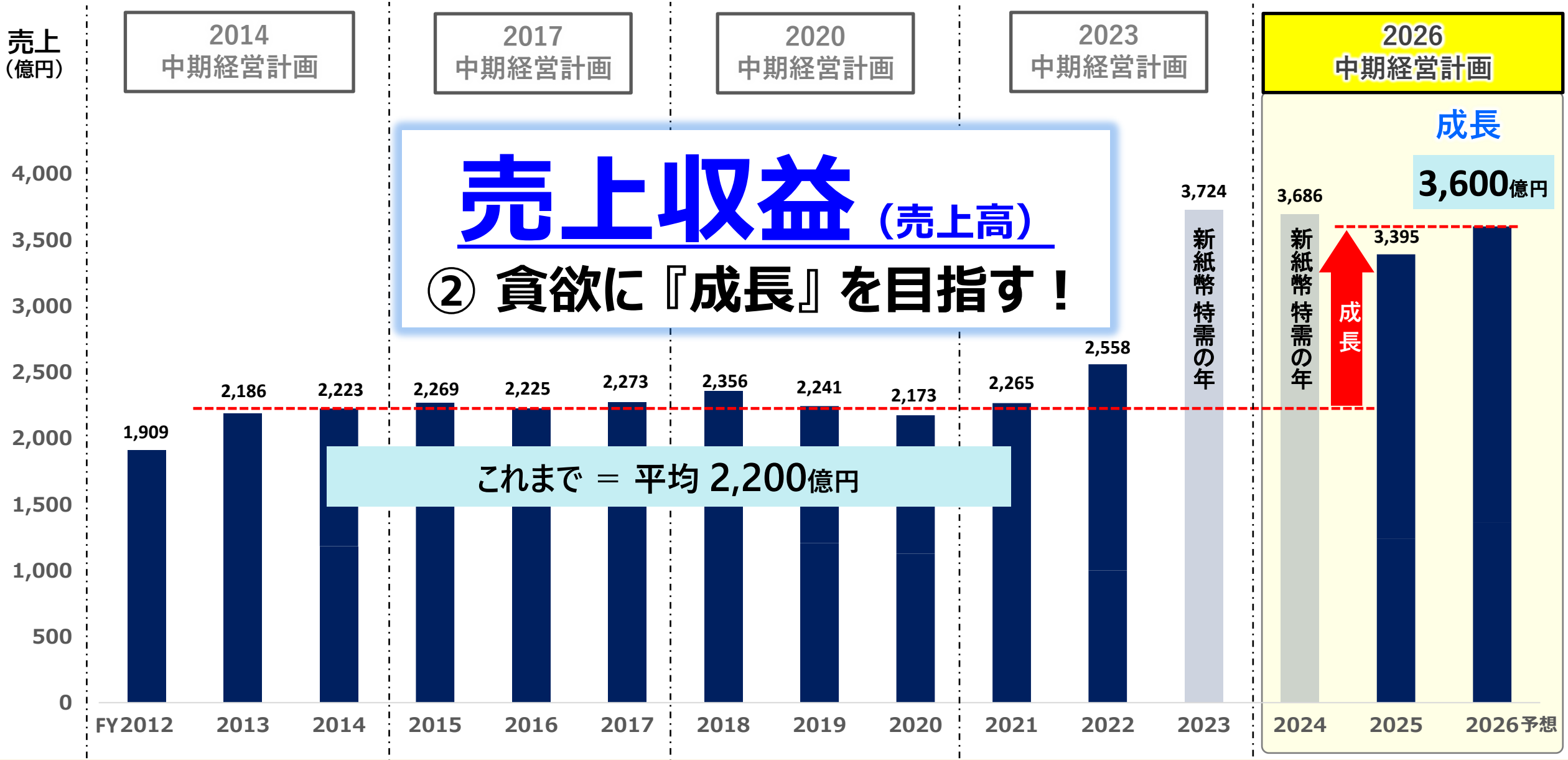
サマリー

・ROEの向上
・ROICの向上
・ROAの向上
・営業利益（稼ぐ力）の向上
・純利益の向上
・事業成長（売上収益）

2026中期経営計画のKPI進捗（サマリー）



2026中期経営計画のKPI進捗（サマリー）



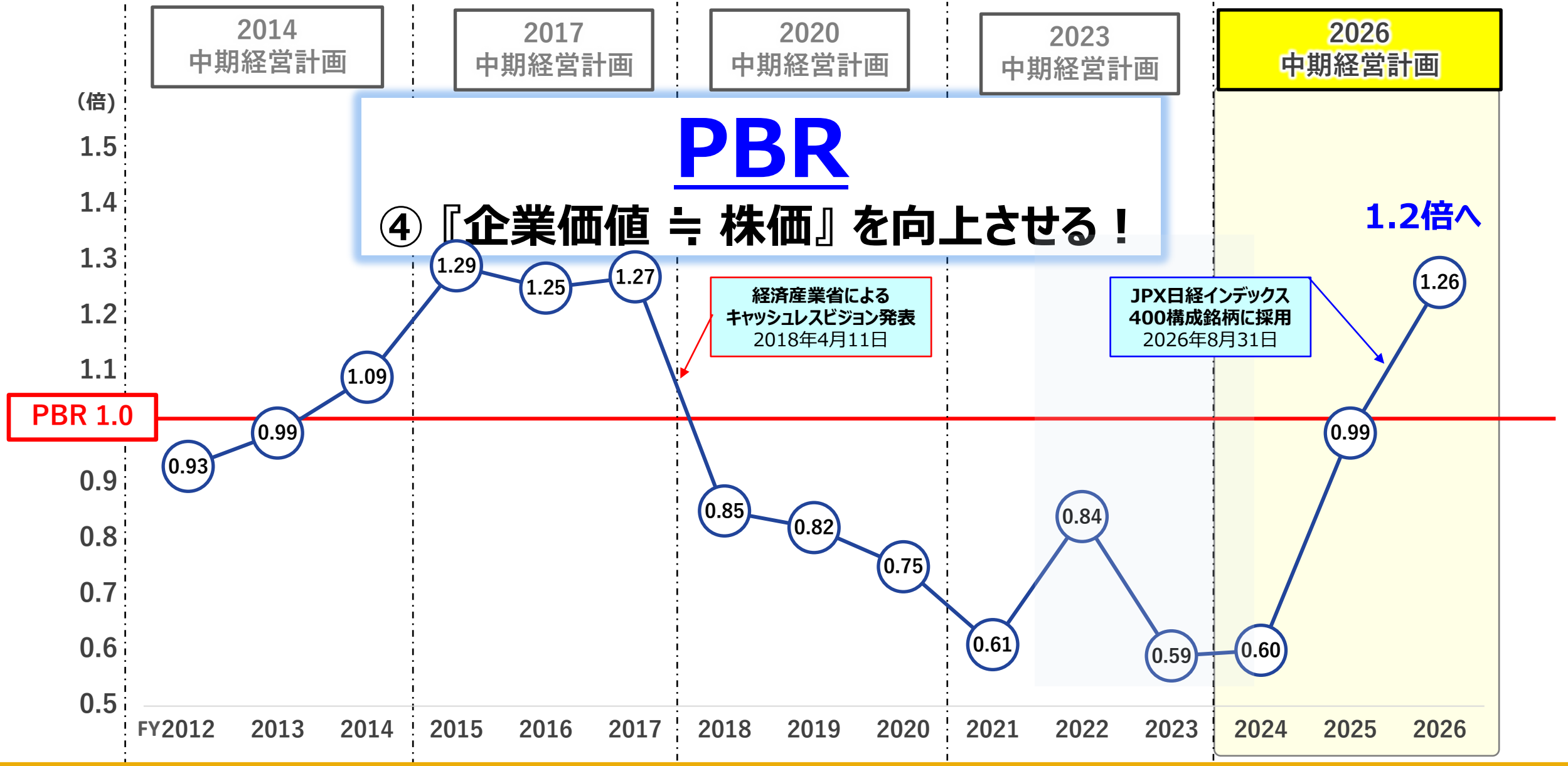
2026中期経営計画のKPI進捗（サマリー）



株 価

③『企業価値 ≒ 株価』を向上させる！

2026中期経営計画のKPI進捗（サマリー）

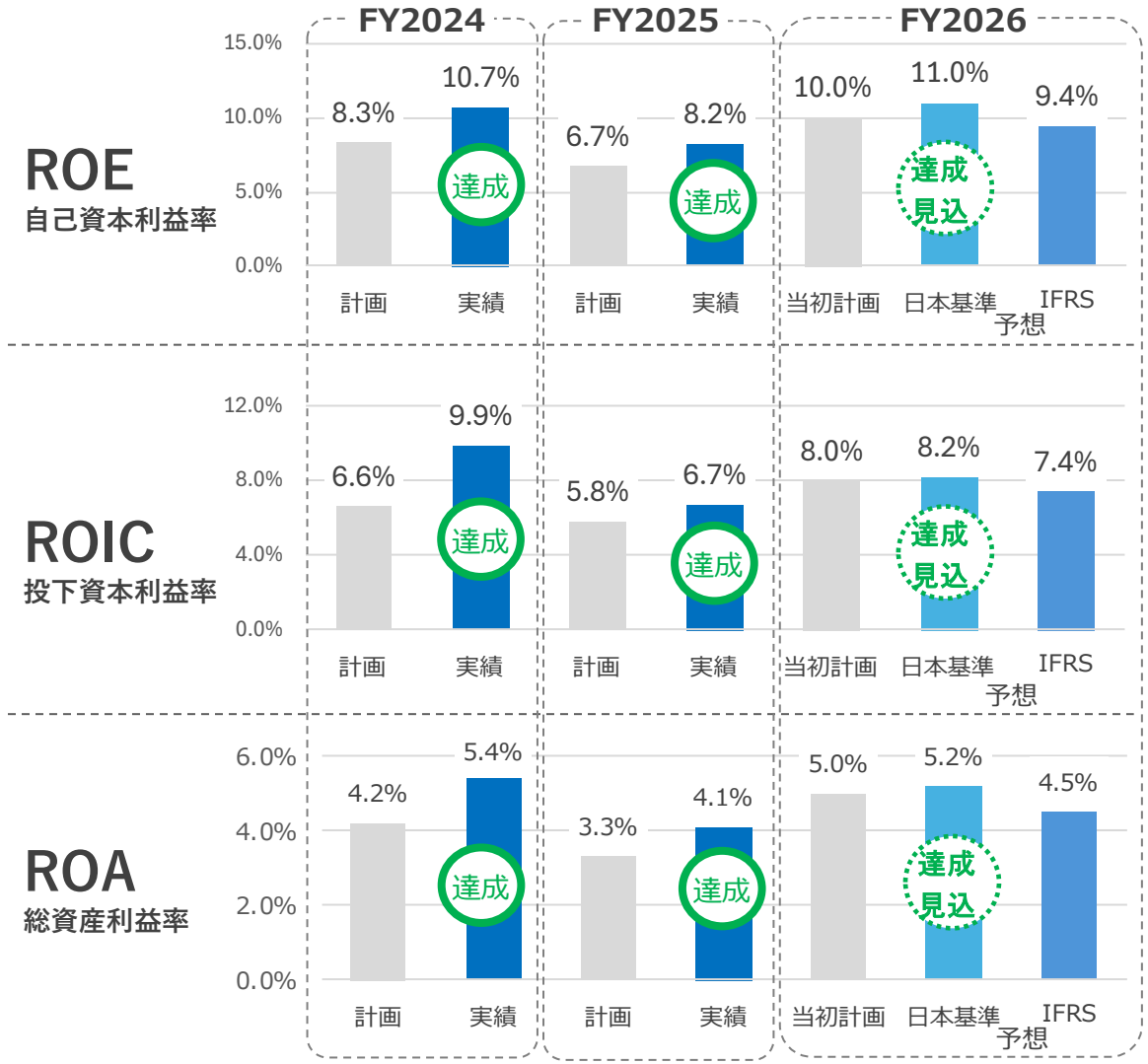


2026中期経営計画のKPI進捗（サマリー）

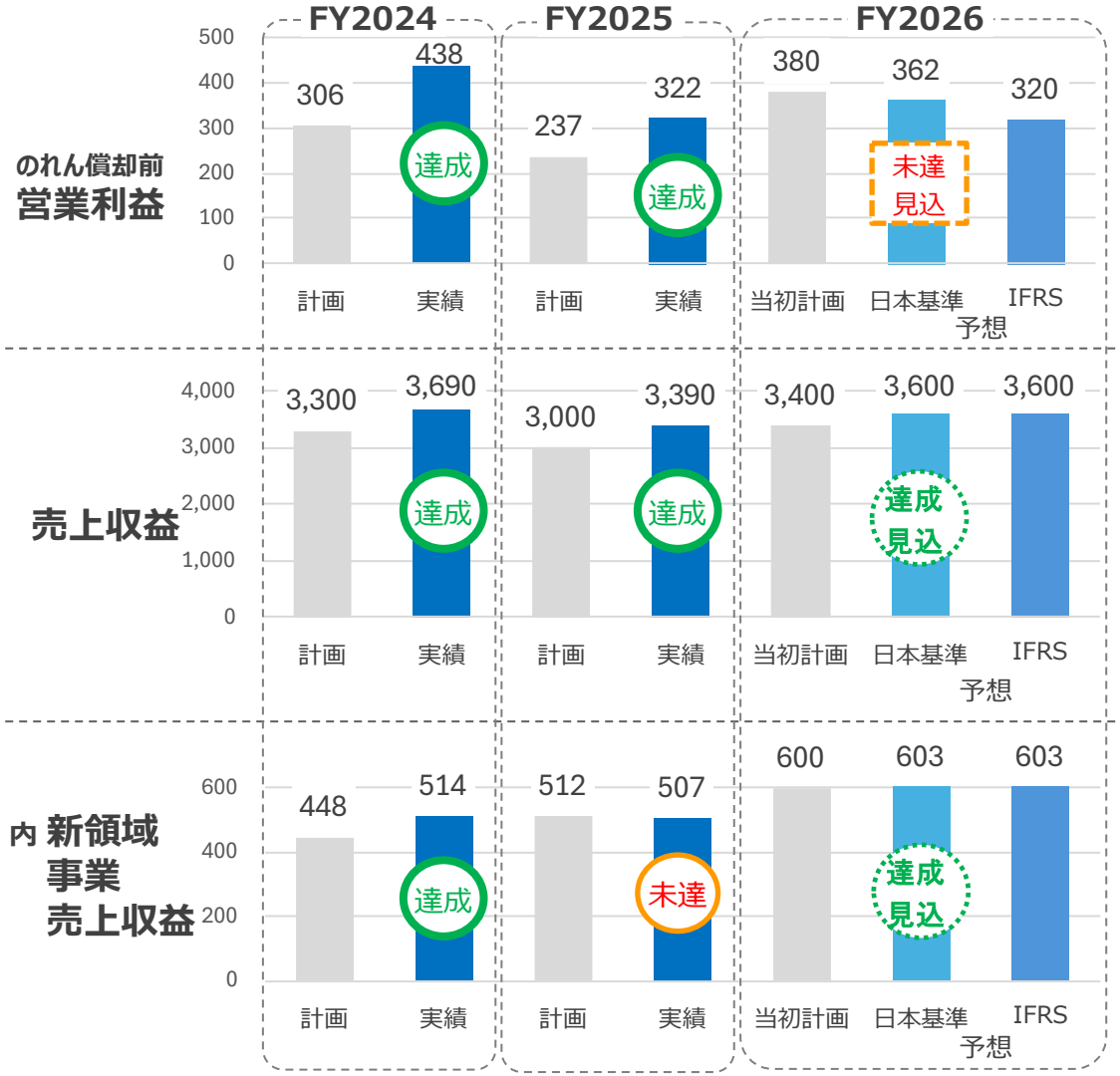
FY2024, FY2025, FY2026（計画） ＝ 日本会計基準
FY2026（実績予想） ＝ 日本会計基準とIFRSを併記

- 中期経営計画の2年目(2025年度)までは、各項目とも ほぼ計画通りに進捗
- 最終年度となる2026年度についても、3ヶ年の締めくくりに向け効率性の向上に注力

効率性



P/L

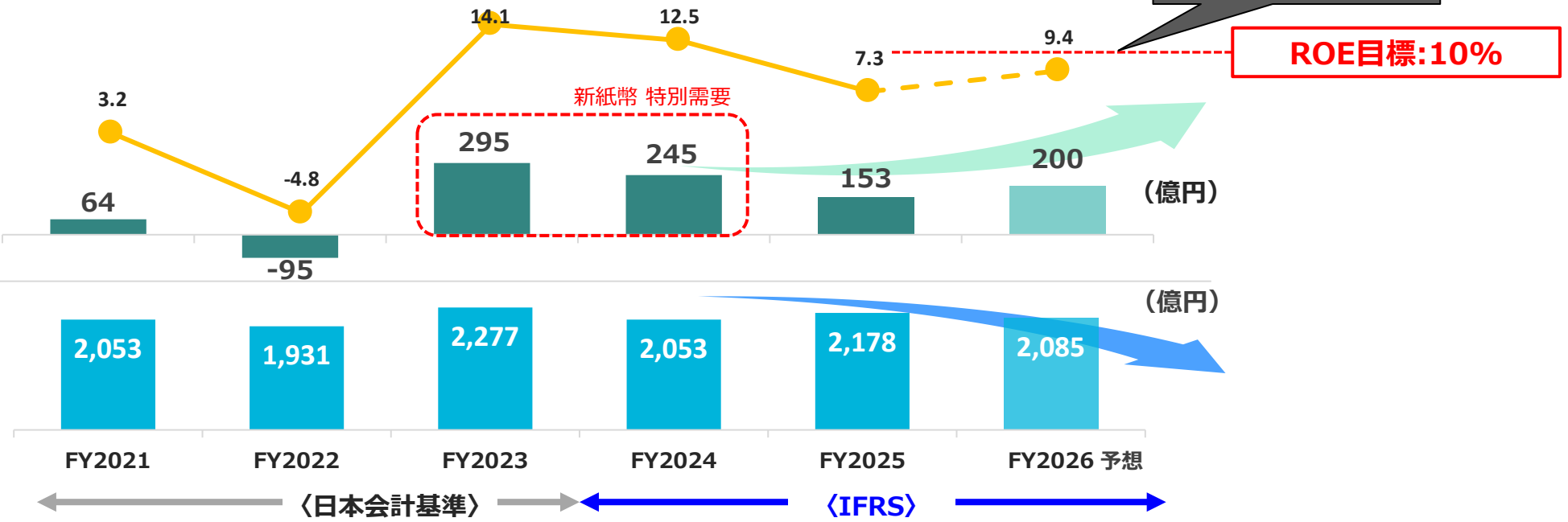


ROEの向上

3月末の最終着地において目標達成すべく最後の追い上げを図る

ROE目標:10%

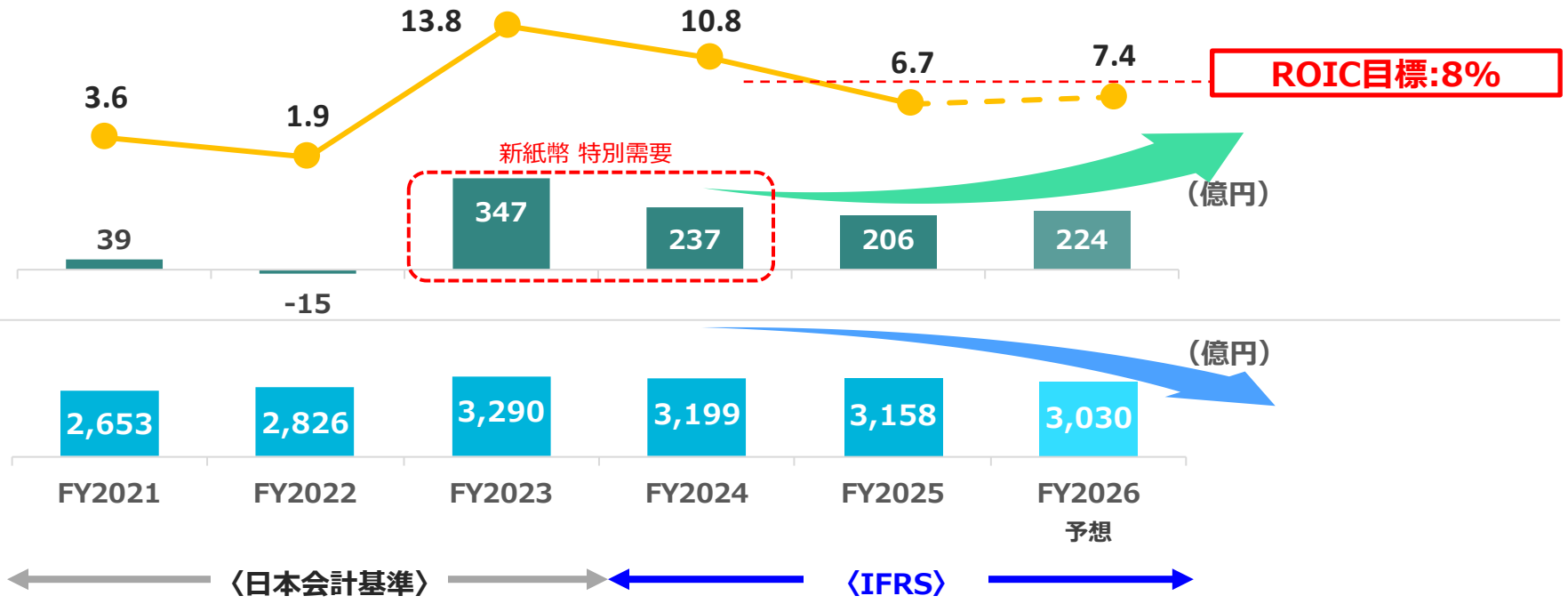
$$ROE = \frac{\text{親会社株主に帰属する当期利益}}{\text{親会社の所有者に帰属する持分}}$$



		2026年度のアクション	評価	取り組み
配当の強化		・累進配当の継続、及びDOE４%以上に配当方針を変更し、年間配当総額 80億円を予定 ・次期中期経営計画期間においては、さらなるDOE向上を目指す	○	・上期配当77円とし、累進配当を継続（年間配当金総額　約80億円の見込み）
自己株式取得による自己資本の削減		・120億円（上限）の自己株式取得を計画	○	・58.6億円の自己株を取得（2026年9月末時点）進捗率48.9%
負債水準	自己資本比率	・50%程度（2026中期経営計画の目標水準）を維持	○	47.9%（2026年9月末時点）
	D/Eレシオ	・0.6以下（2026中期経営計画の目標水準）を維持	○	0.47　（2026年9月末時点）

ROICの向上

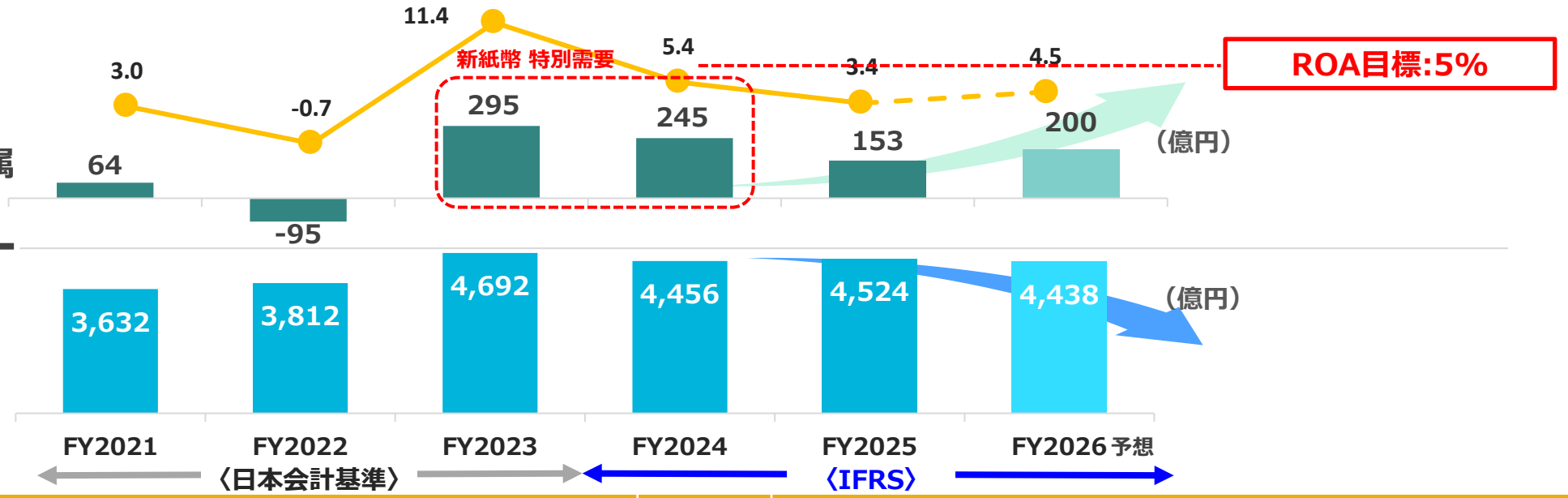
$$ROIC = \frac{\text{税引後営業利益}}{\text{有利子負債} + \text{資本合計}}$$



資金効率の改善	2026年度のアクション	評価	取り組み
売掛債権	適正な債権回収を実施	○	売掛金の回収が進み、売掛債権は、前期末比で約56億円減少。 （2026年9月末時点）
棚卸資産	適正在庫を維持	○	製品、部品は減少したが、仕掛品の増加により前期末比16億円増加。 （2026年9月末時点）

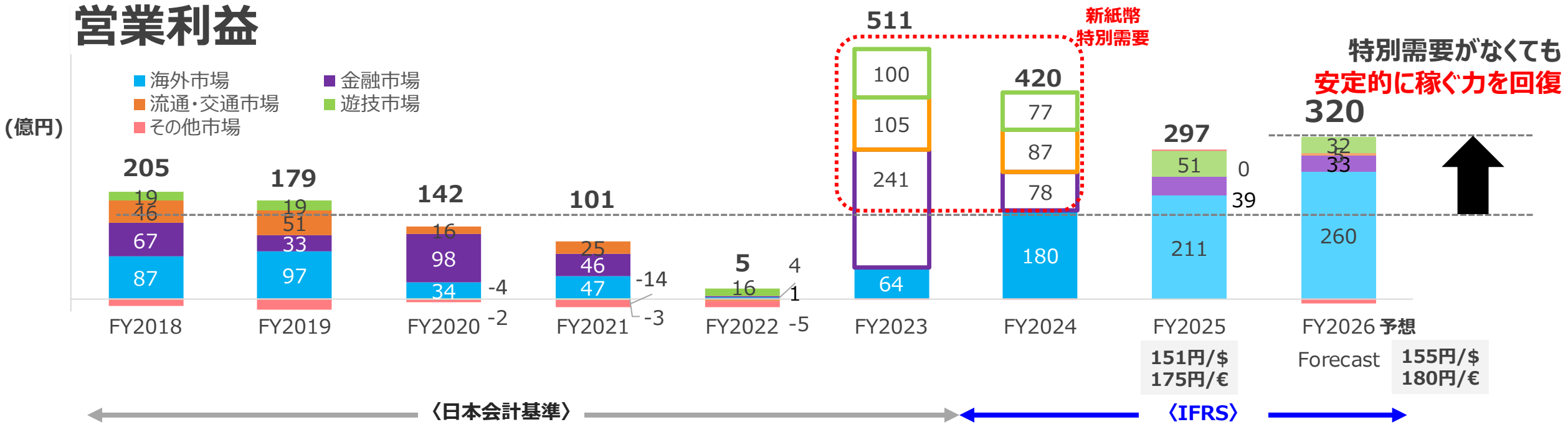
ROAの向上

$$ROA = \frac{\text{親会社株主に帰属する当期利益}}{\text{資産合計}}$$



総資産の適正化 B/Sのスリム化	2026年度のアクション	評価	取り組み
現預金	コミットメントラインの活用等により効率化を推進 • 目的：機動的かつ安定的な資金調達手段の確保による、財政基盤のより一層の強化 • 借入限度：150億円　・契約締結日：2026年3月31日	△	• 現預金は、前期末比52億円増の553億円（2026年9月末時点）（月商の1.8ヶ月分） • 手元資金が潤沢でコミットメントラインの実行なし
売掛債権	適切な債権管理を推進	○	売掛金の回収が進み売掛債権は前期末比で約56億円減少（2026年9月末時点）
資産合計	棚卸資産や売掛債権の削減を推進	○	総資産は、前期末比わずか16億円増の4,541億円（2026年9月末時点）

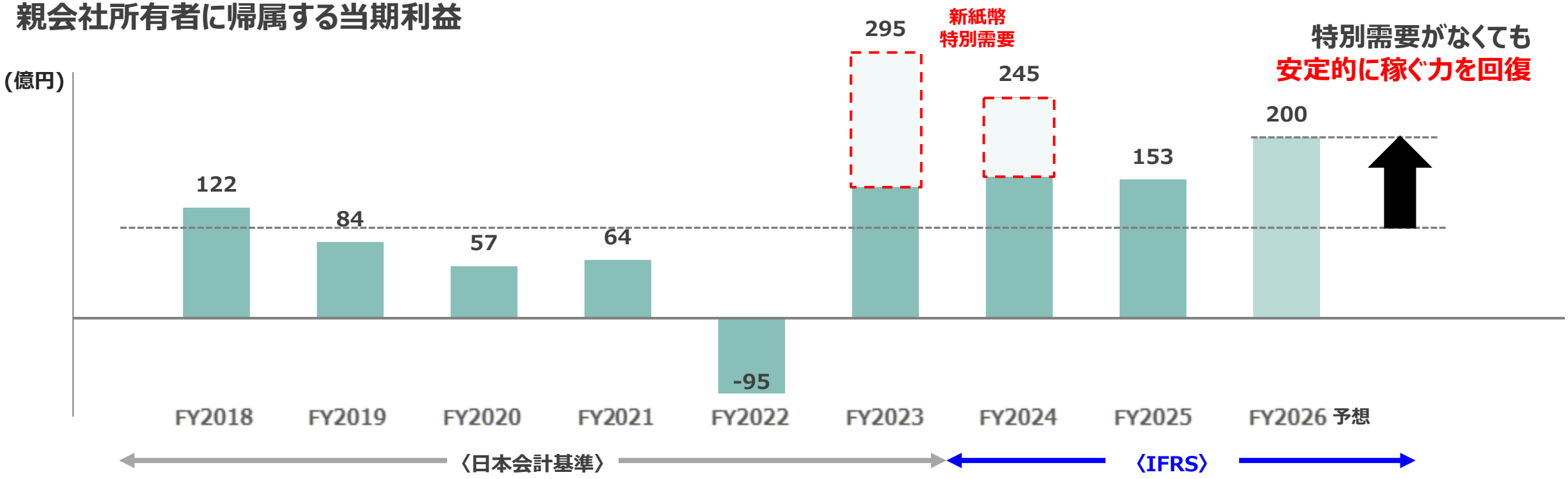
営業利益（稼ぐ力）の向上



	2026年度のアクション	評価	取り組み
国内	主要製品の更新需要の復調によるプロダクトミックスの改善により、利益回復を目指す	△	• 部品価格高騰の影響により、利益縮小 • 生産への影響の最小化を目指す
海外	構造改革による効率化を推進し、利益率向上を目指す	○	3社一体となった顧客へのアプローチにより、収益力を強化
新領域	事業成長を軸に利益回復を目指す	×	Flooid：成長加速を見込んだ投資を継続

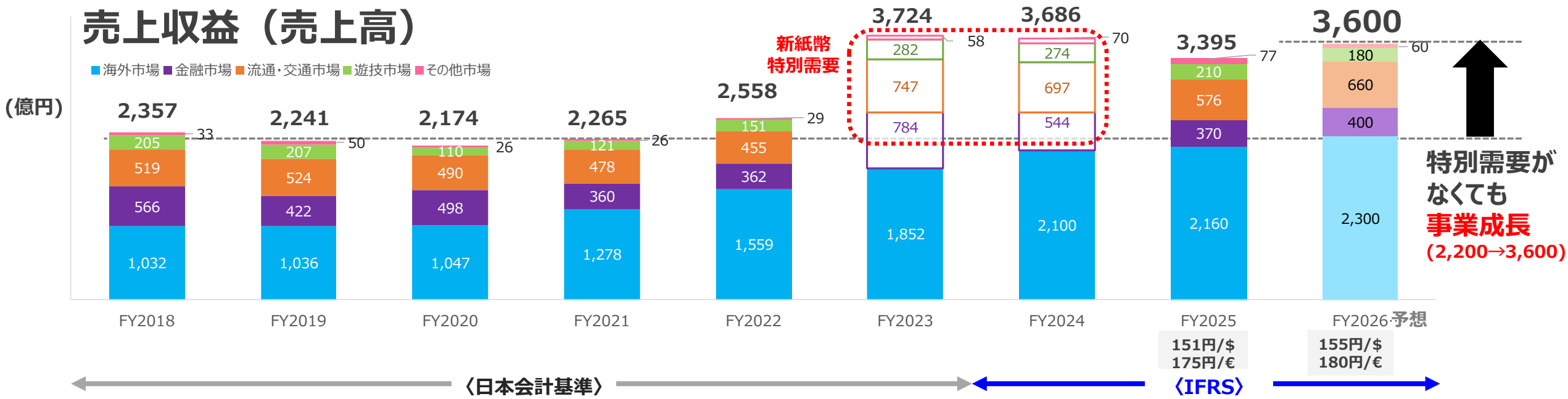
当期利益（純利益）の向上

親会社所有者に帰属する当期利益



2026年度のアクション	評価	取り組み
グローバルベースの為替リスクヘッジの範囲を拡大し、対象となる通貨ペアを増やすことでより効果的なヘッジを実行	○	取引量が最も多いドルと他通貨のペアでリスクヘッジを拡大。為替変動の影響が大きい通貨を特定し、これまでの対円、ユーロだけでなく、10通貨程度の為替予約を毎月実行
適正な負債水準を維持	○	運転資金として短期借入金が増加したが、約定弁済により長期借入金は減少し、金利上昇局面でも支払利息は想定通りに抑制

事業成長（売上収益成長）



	2026年度のアクション	評価	取り組み
国内	• 金融：プラス金利を背景とした旺盛な設備投資を確実に獲得	○	人手不足に対応したセルフ型製品の販売拡大や、業種拡大に注力
	• 流通交通：人手不足や人件費高騰を背景としたセルフ化需要に対応し、レジつり銭機などの販売拡大を見込む	○	
海外	• 金融：業務効率化に対応したセルフ型ロビー機の拡販を見込む	○	米国の金融機関での需要拡大を見込む
	• リテール：セルフ化・厳正化ニーズに対応した現金管理ソリューションの拡販を進める	○	北米での成功事例の中南米への拡大に注力
新領域	• Flooid：営業体制の強化により、新規顧客開拓を加速	×	新規案件獲得は遅延
	• Acrelec：主要顧客へのセルフサービスキオスクの販売を進める	○	ソリューションの多角化により収益底上げ

2

2027年3月期 中間期実績
および
2027年3月期 予想の概要

取締役 IR担当　藤田 知子

直近の市場動向

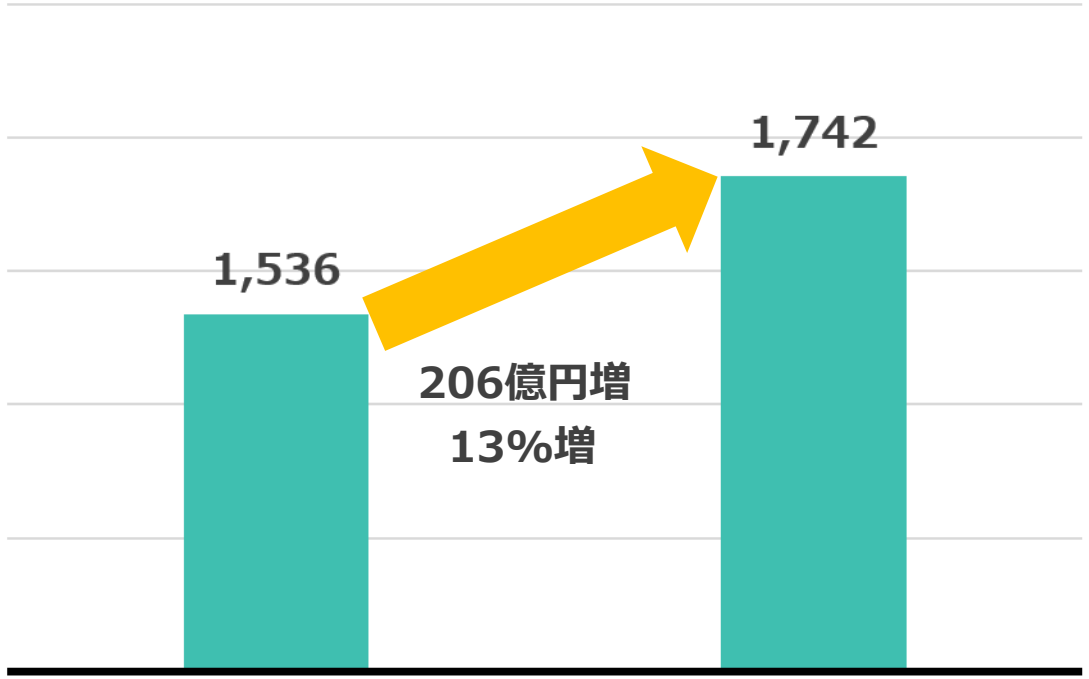
金 融		• 金利上昇を背景に金融機関の業績は好調であり、設備投資意欲が高い。 • 人手不足から業務効率化・厳正化のニーズが強く、現金処理機・非現金製品ともに、需要が旺盛である。
流通・交通		• フロント向けについては、セルフ化需要が強く、レジつり銭機への需要は高い。 • バックオフィス向けについては、現金管理の効率化ニーズが高まり入出金機の需要が拡大している。
遊 技		• スマート遊技機の導入スピードが鈍化しつつあることから、関連機器への需要が減速している。
海 外	米州	• 中米地域を中心に、現金管理の厳正化・効率化ニーズが高まり、関連需要が拡大している。
	欧州	• 人手不足や店舗運営効率化を背景に、リテール向け需要が堅調に推移している。
	アジア	• 店舗運営効率化や現金管理高度化に向けたリテール需要が拡大している。

2027年3月期 中間期 連結実績

［IFRS］

売上収益

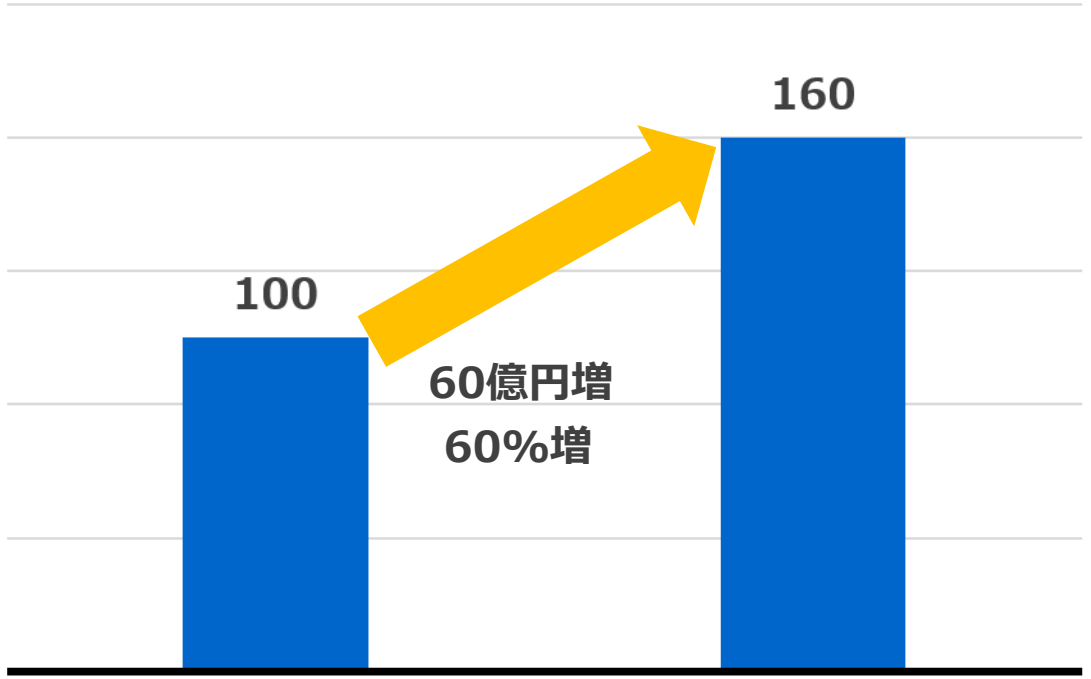
(億円)



	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期
ドル	146円	159円
ユーロ	168円	184円

営業利益

(億円)

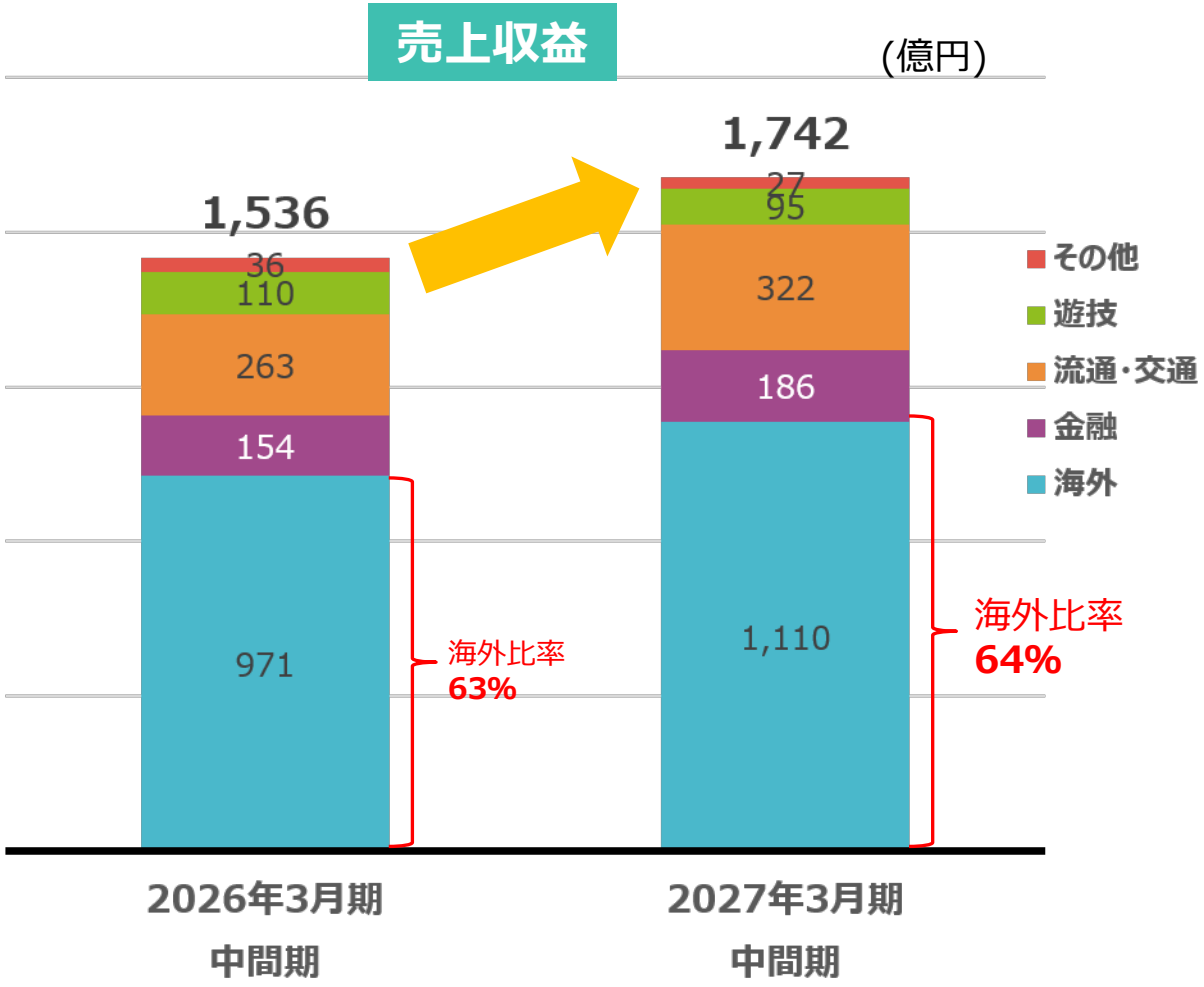


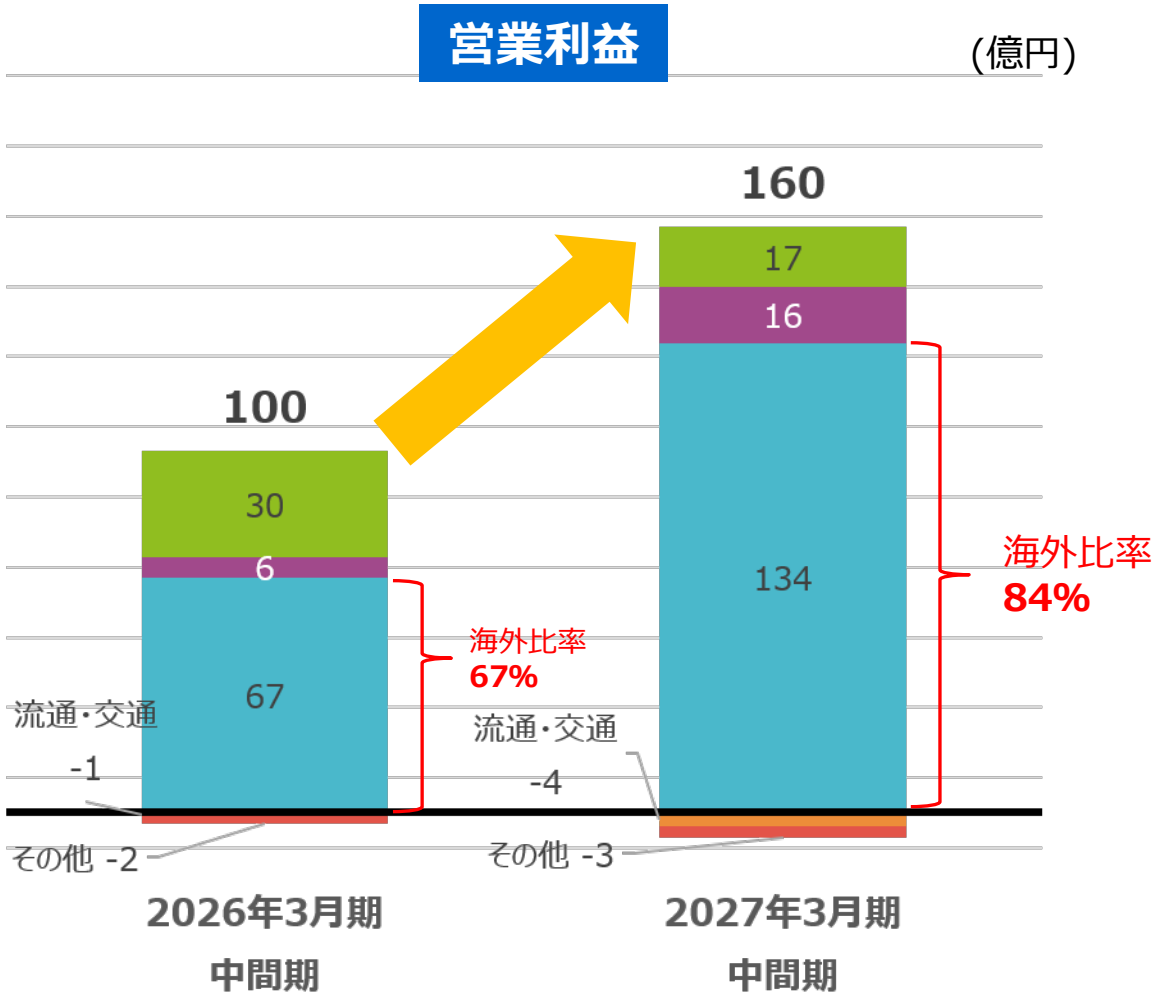
	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期
ドル	146円	159円
ユーロ	168円	184円

海外市場で製品・サービスの販売拡大、保守の業務改善、円安効果により増収増益

2027年3月期 中間期 セグメント別貢献度

［IFRS］

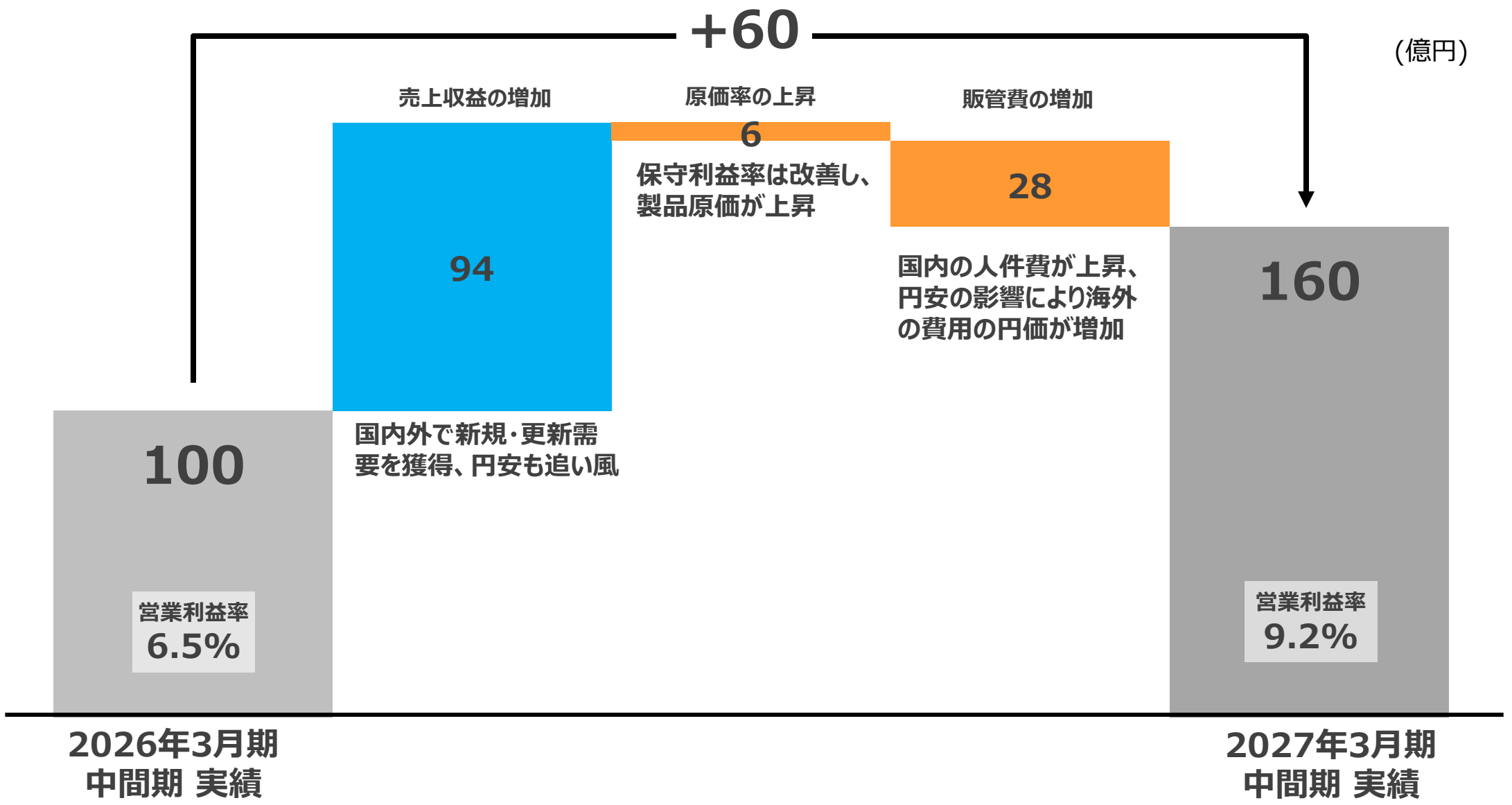




海外では販売堅調・円安効果があった一方、国内では一部部材不足の影響もあり、海外の利益貢献度が大幅に増加

2027年3月期 中間期 営業利益 増減要因

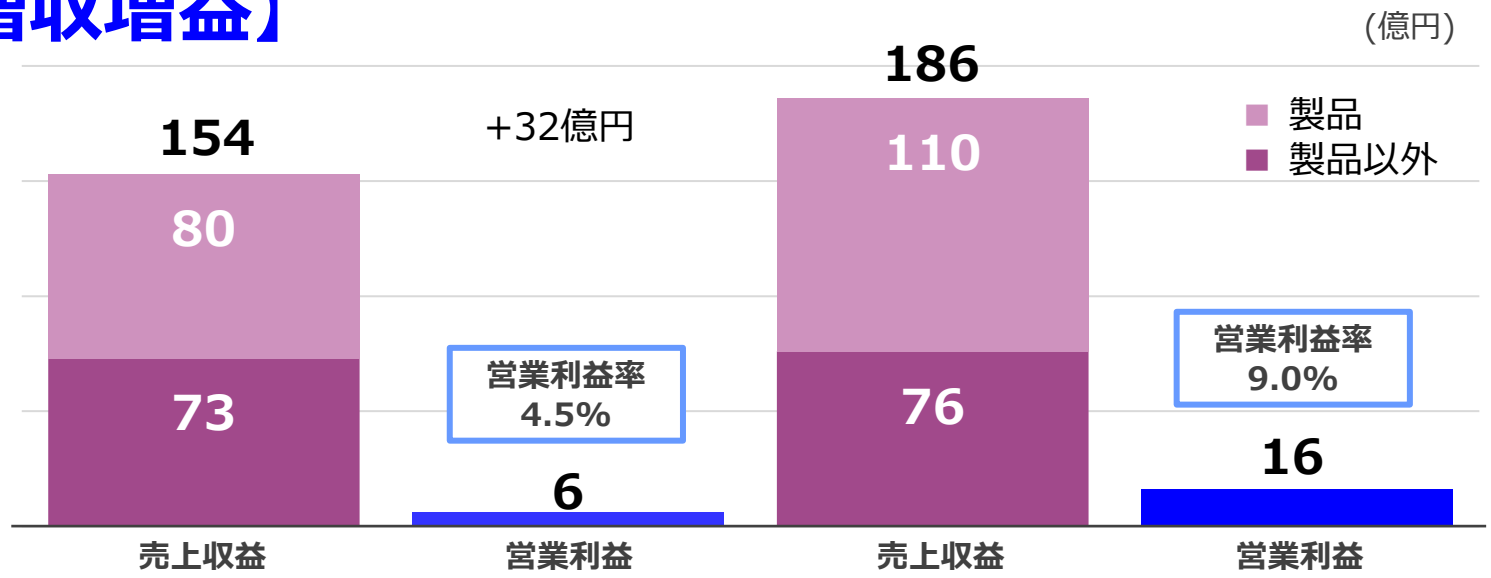
［IFRS］

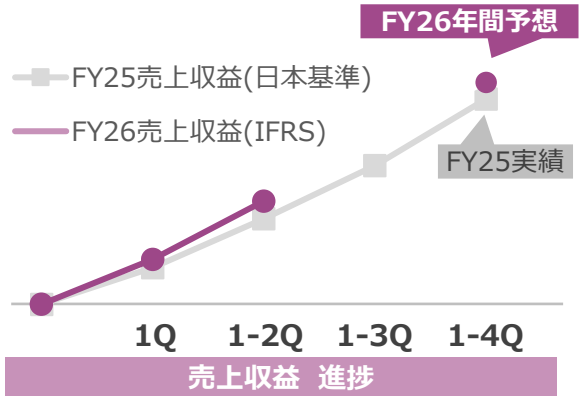


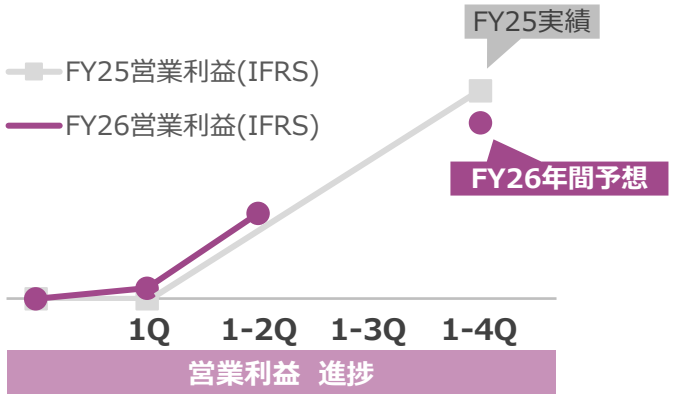
金融市場

［IFRS］

【増収増益】







前年同期との増減要因

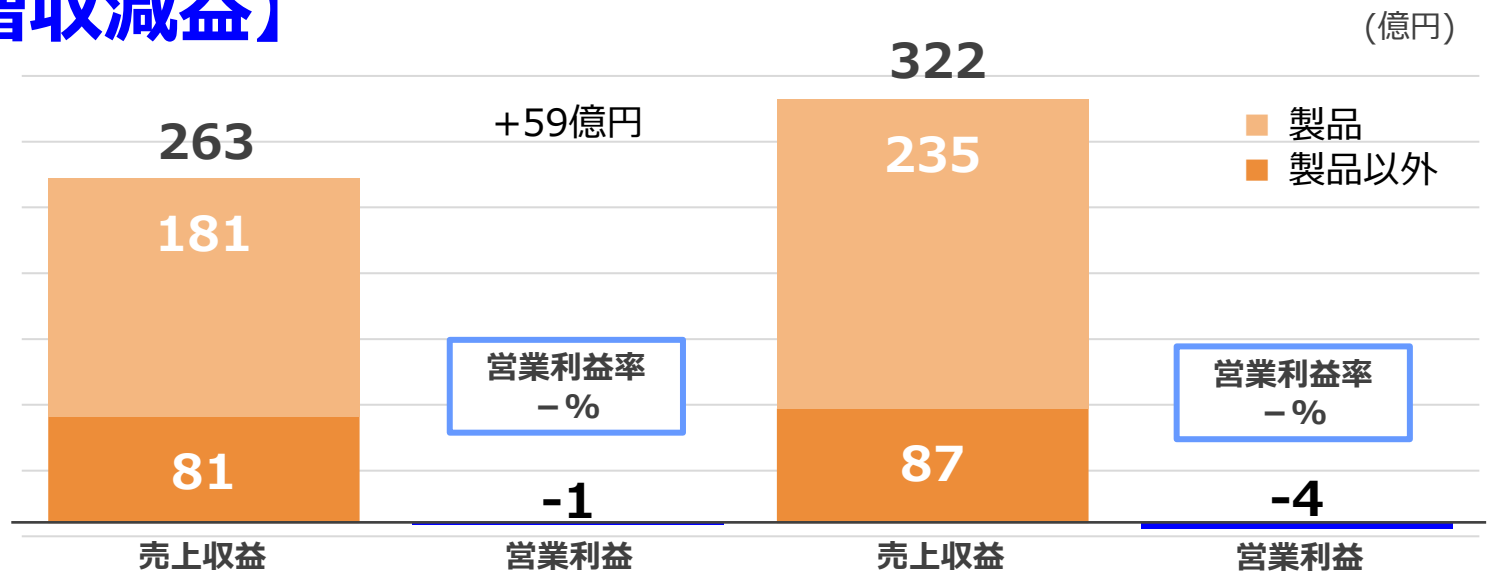
- **売上収益**
  新紙幣発行に関する特別需要の反動減から需要が回復基調。
  主要製品のオープン出納システムや窓口用紙幣硬貨入出金機の販売増加等により増収。

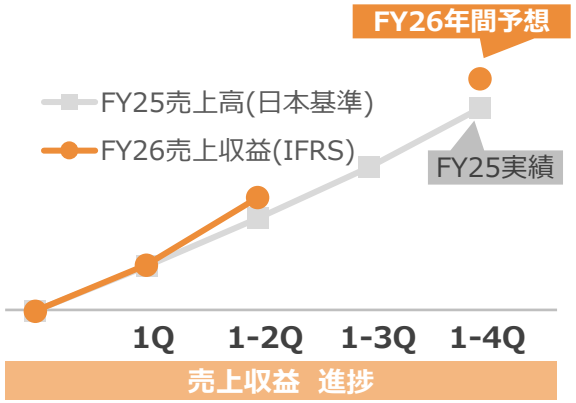
- **営業利益**
  主要製品の売上収益の増加により、人件費等増加にも関わらず増益。

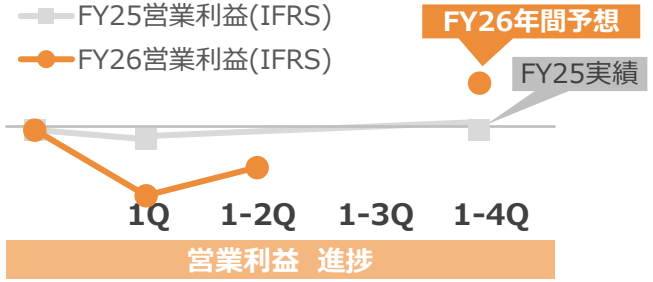
流通・交通市場

［IFRS］

【増収減益】







前年同期との増減要因

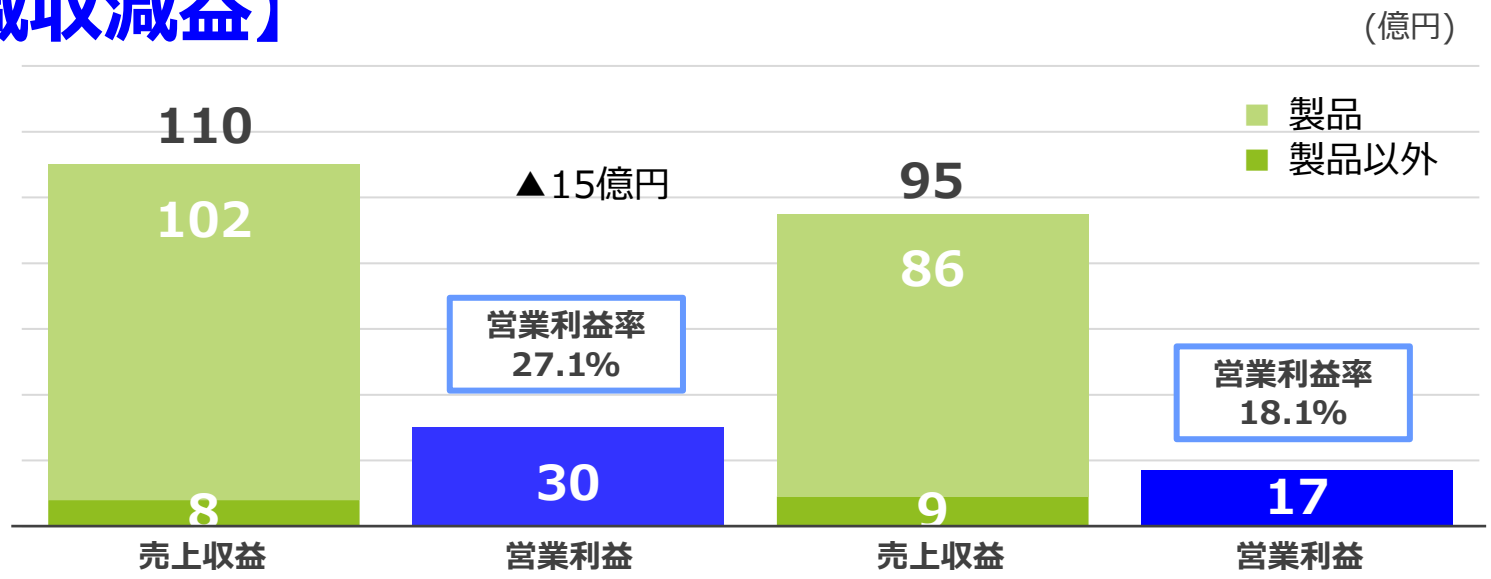
- **売上収益**
  大型案件の他、全般に人手不足等に対応する省人化・効率化ニーズは高く、主要製品のレジつり銭機や入金機の販売が増加した。

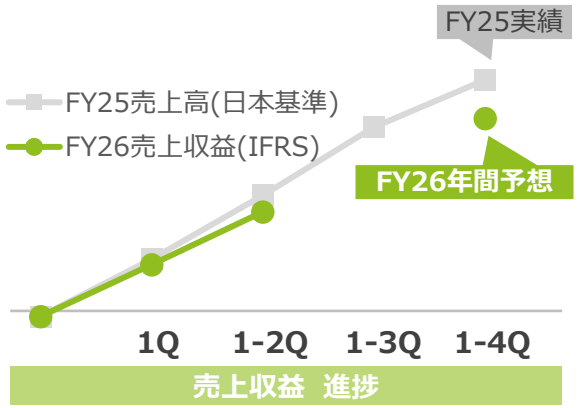
- **営業利益**
  案件ミックスにより利益率が低下し、また人件費が増加したことなどにより営業損失が若干拡大した。

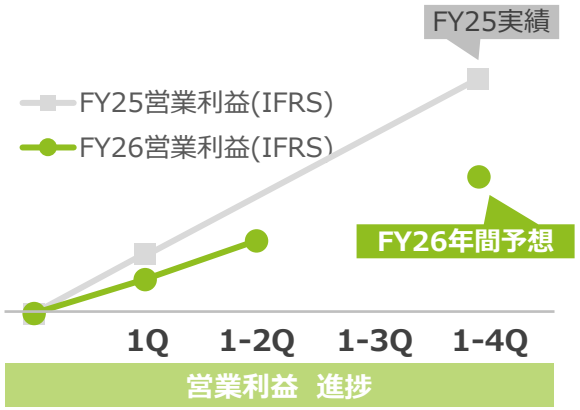
遊技市場

［IFRS］

【減収減益】







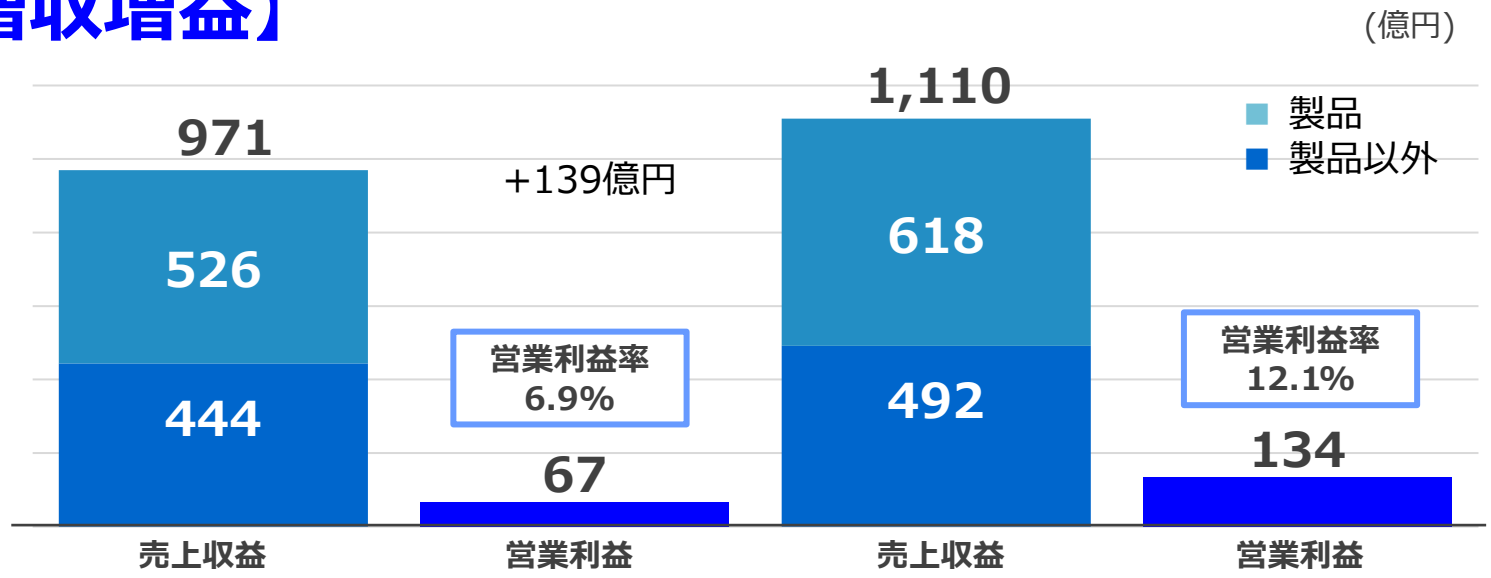
前年同期との増減要因

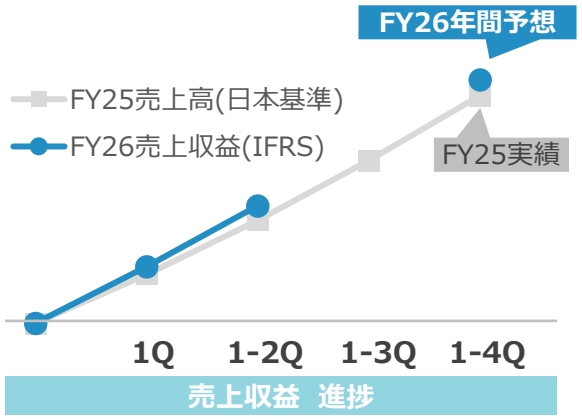
- **売上収益**
  スマート遊技機の導入ペースが鈍化し、
  主要製品のカードシステムの販売が減少。
- **営業利益**
  売上収益の減少に伴い減少。

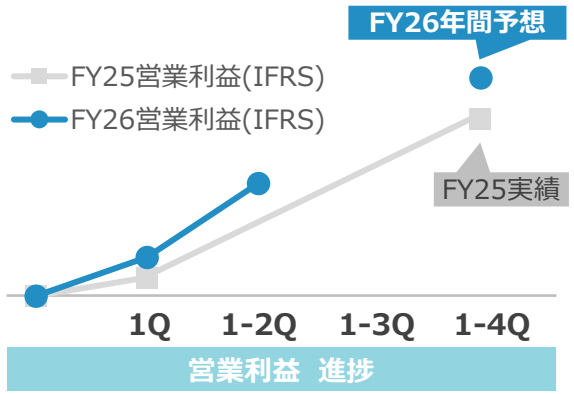
海外市場

［IFRS］

【増収増益】







前年同期との増減要因

- **売上収益**
  １３９億円の増収。うち円安による増加は概算７６億円。
  全般的に需要は旺盛で売上収益は堅調。
  特に、GGS欧州とアクレレックが前年同期比で増加。

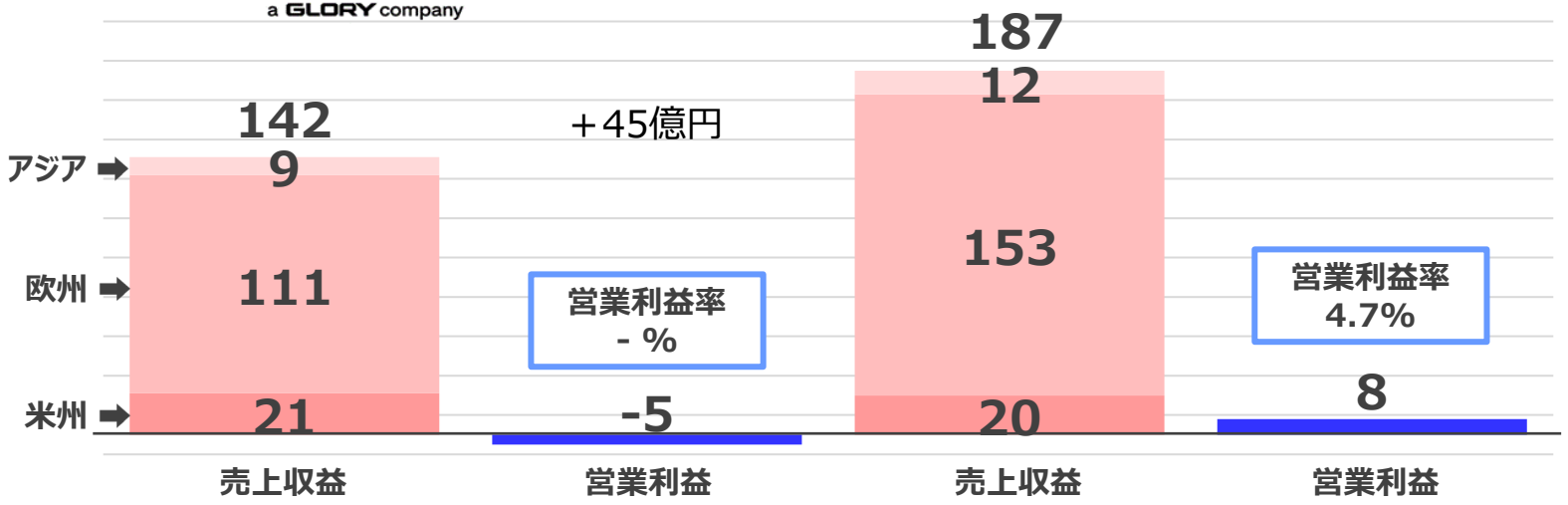
- **営業利益**
  ６７億円の増益。うち円安による増加は、概算１９億円程度。
  売上収益の増加、米国の保守事業の回復と安定、アクレレックの回復等が貢献。

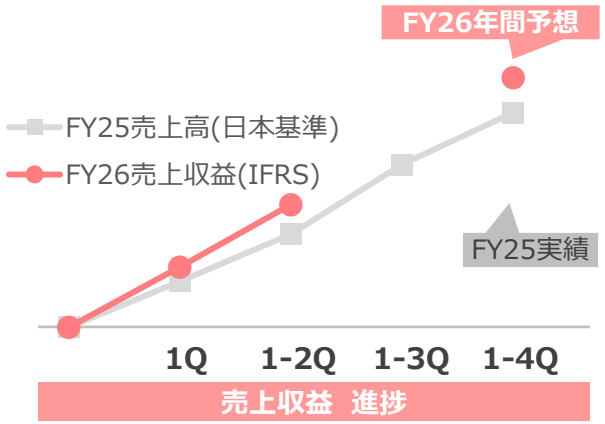
アクレレック

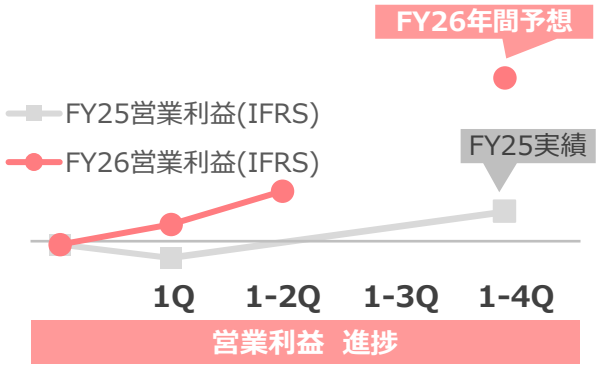
［IFRS］

【増収増益】

(億円)







前年同期との増減要因

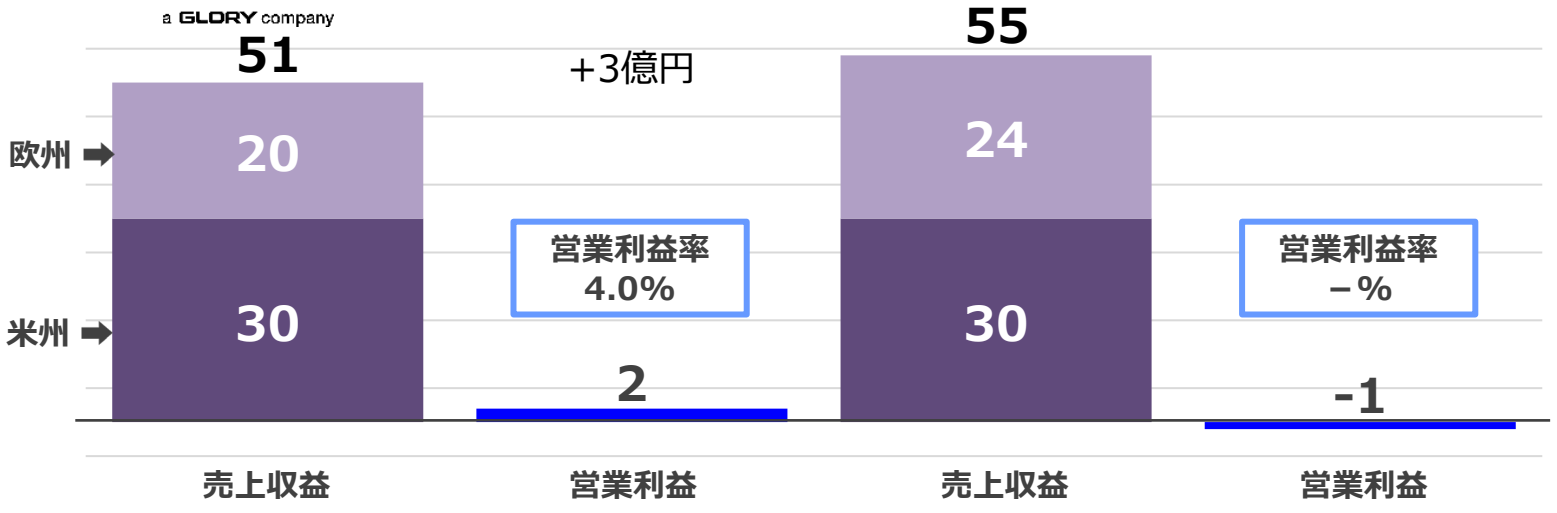
- **売上収益**
  自動化・省人化ニーズが継続、特に欧州での販売が増加。
- **営業利益**
  売上収益の増加、及びコスト改善により、黒字化。

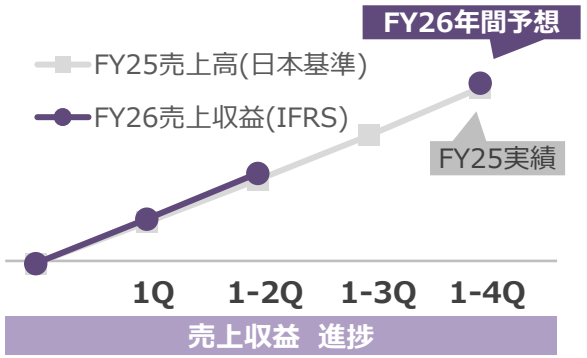
フルイド

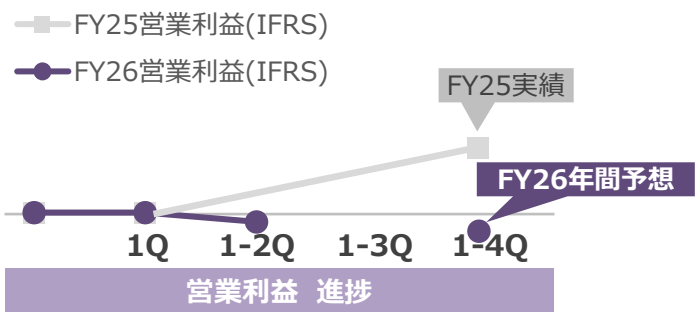
［IFRS］

flooid a GLORY company

【増収減益】







前年同期との増減要因

- **売上収益**
  米国での通商政策等に端を発した先行き不透明感により、顧客が基幹システムの変更に慎重になり、投資を抑制。新規顧客の獲得が遅延している状況が続いている。
- **営業利益**
  売上が伸び悩む一方、開発投資などが継続し、ブレークイーブンが続く。

海外 地域別売上収益

［IFRS］

億円	中間期		前期比		米ドルベース増減率
	2026年3月期	2027年3月期	増減額	増減率	
米州	453	458	+5	+1.1%	-7.3%
内 GGS	400	407	+6	+1.6%	-6.9%
内 Acrelec	21	20	-1	-5.1%	-13.0%
内 Flooid	30	30	0	-1.1%	-9.4%
欧州	444	558	+113	+25.6%	+15.1%
内 GGS	220	272	+53	+24.2%	+13.8%
内 Sitrade	91	105	+14	+15.3%	+5.5%
内 Acrelec	111	153	+42	+38.1%	+26.6%
内 Flooid	20	24	+3	+18.8%	+8.9%
アジア	73	93	+20	+28.2%	+17.4%
内 GGS	62	78	+16	+25.8%	+15.5%
内 Acrelec	9	12	+3	+43.4%	+31.4%
合計	971	1,110	+139	+14.4%	+4.8%
内 GGS	684	760	+75	+11.8%	+1.9%
内 Sitrade	91	105	+14	+15.3%	+5.1%
内 Acrelec	142	187	+45	+31.8%	+20.8%
内 Flooid	51	55	+3	+7.0%	-2.0%

* 大口案件の反動

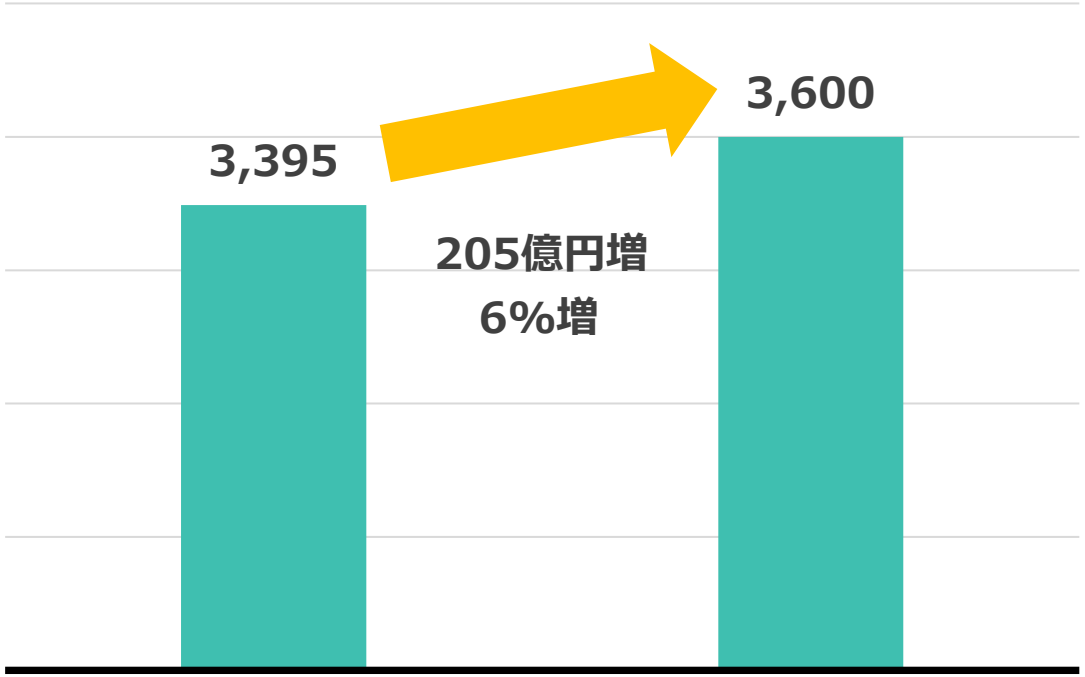
為替レート				
	ドル	146 円	159 円	13 円の円安
	ユーロ	168 円	184 円	16 円の円安

2027年3月期 通期 連結概要

［IFRS］

売上収益

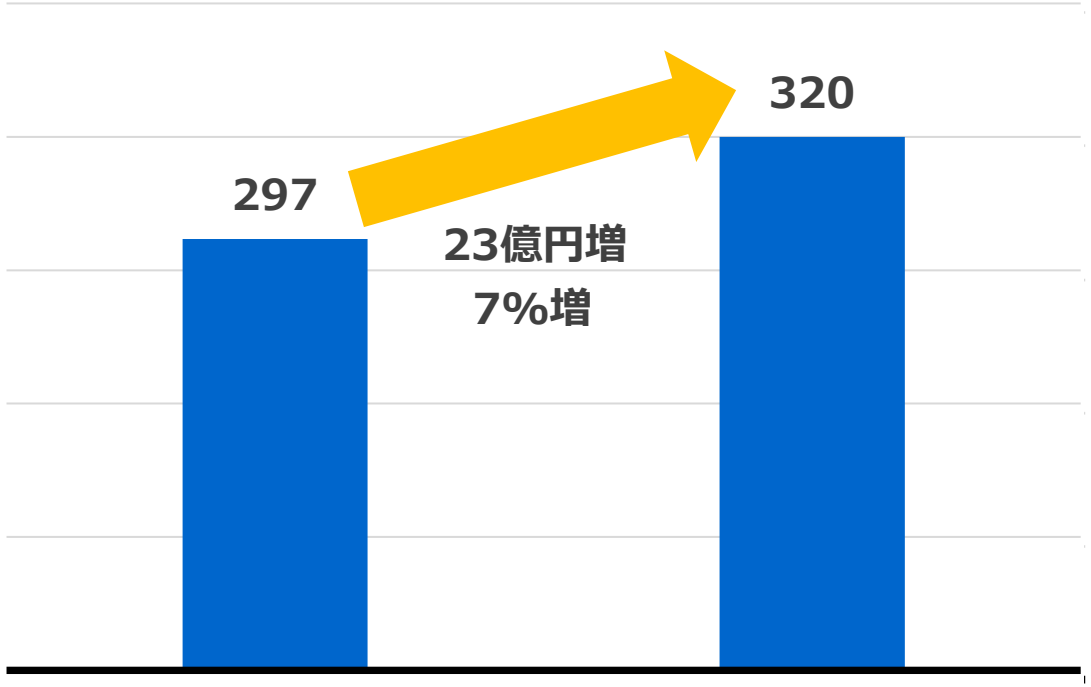
(億円)



	2026年3月期 通期	2027年3月期 通期予想 上期実績レート	2027年3月期 通期予想 下期想定レート
ドル	151円	159円	155円
ユーロ	175円	184円	180円

営業利益

(億円)



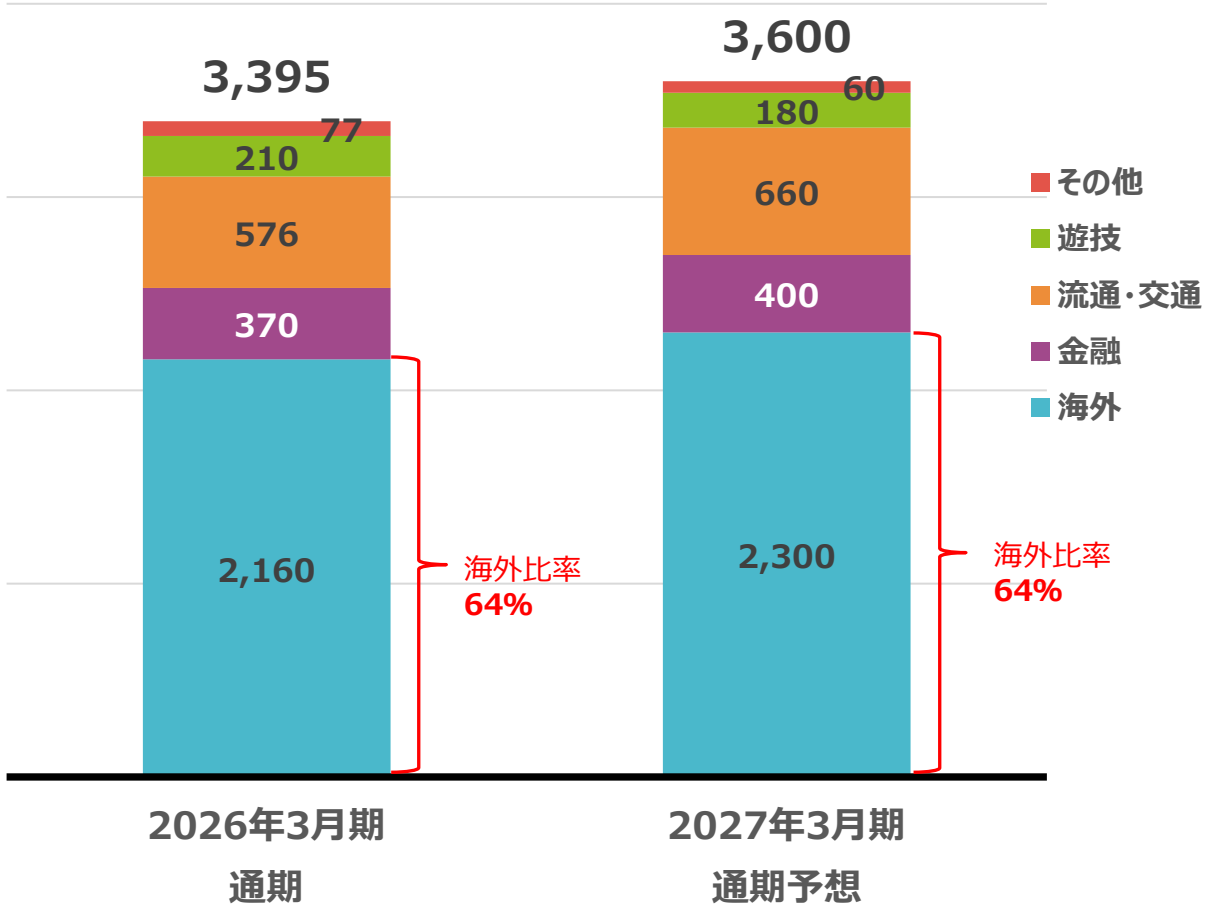
	2026年3月期 通期	2027年3月期 通期予想 上期実績レート	2027年3月期 通期予想 下期想定レート
ドル	151円	159円	155円
ユーロ	175円	184円	180円

売上収益と営業利益の数字は、前回と変更なし。

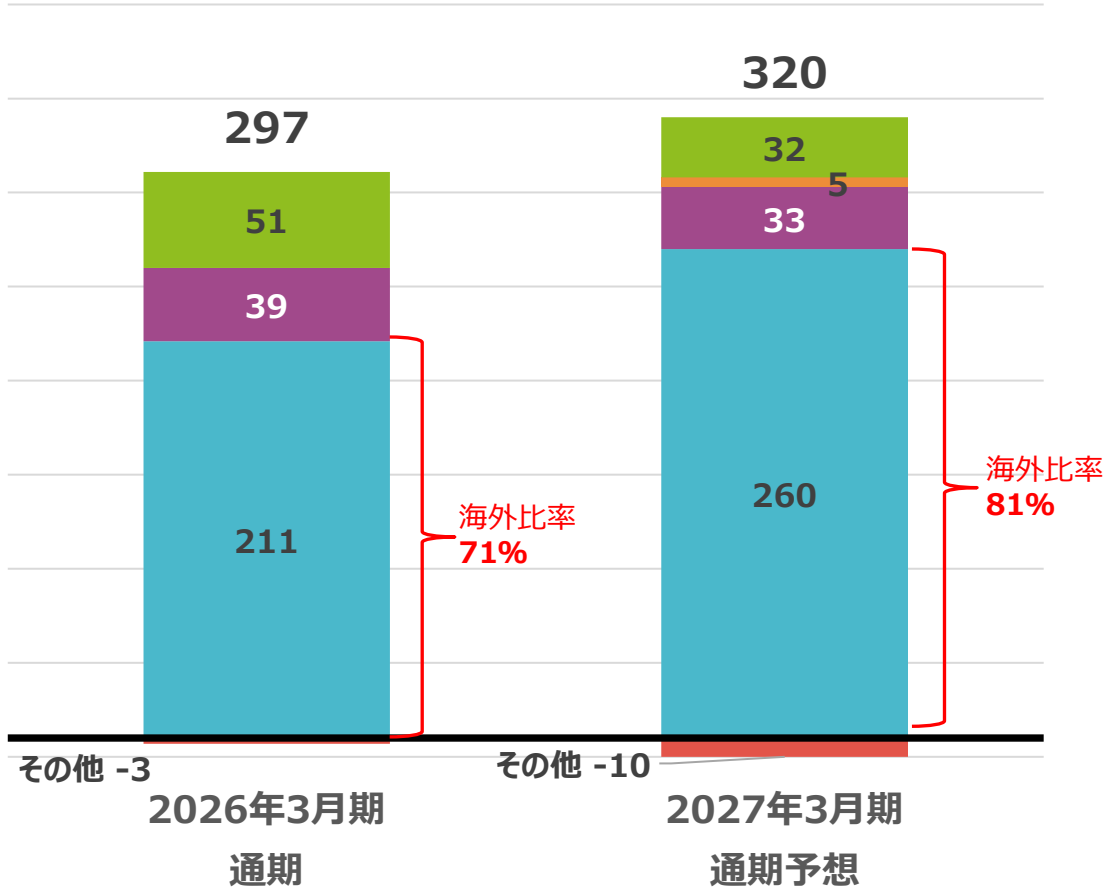
2027年3月期 通期 セグメント別貢献度

［IFRS］

売上収益



営業利益



営業利益における海外の貢献度が増加。

「グローリー IR DAY 2026」のご案内

グローリーは、
なぜ海外分野を伸ばせるのか

海外の各事業責任者が来日！

グループが目指す未来の姿をお伝えします！



日時　2027 年 1 月 27 日（水曜日）　プレゼンテーション＆ディスカッション：10:00～　ショールーム見学・フリーディスカッション：13:00～

場所　グローリー株式会社 東京本部

開催形式　ハイブリッド形式（現地・オンラインともに同時通訳あり）

3 データセクション

3期分 P&L

［IFRS］

億円	2025年３月期		2026年３月期				2027年３月期			
	実績	売上収益比率	実績	売上収益比率	前期比		予想	売上収益比率	前期比	
					増減額	増減率			増減額	増減率
売上収益	3,686	100.0%	3,395	100.0%	-291	-7.9%	3,600	100.0%	+205	+6.0%
営業利益	420	11.4%	297	8.8%	-123	-29.3%	320	8.9%	+23	+7.6%
親会社の所有者に帰属する当期利益	245	6.6%	153	4.5%	-92	-37.6%	200	5.6%	+47	+30.0%

為替レート	米ドル	153 円	151 円	（期初予想）150円 ➡ 155 円
	ユーロ	164 円	175 円	（期初予想）170円 ➡ 180 円

3期分 セグメント別

［IFRS］

億円		2025年3月期 実績	2025年3月期 売上構成比率 / 営業利益率	2026年3月期 実績	2026年3月期 売上構成比率 / 営業利益率	前期比 増減額	前期比 増減率	2027年3月期 予想 2026/5/13時点	2027年3月期 予想 2026/11/10時点	2027年3月期 売上構成比率 / 営業利益率	前期比 増減額	前期比 増減率
海外市場	売上収益	2,100	57.0%	2,160	63.6%	+60	+2.9%	2,240 ➡	2,300	63.9%	+140	+6.4%
	営業利益	180	8.6%	211	9.8%	+31	+17.2%	240 ➡	260	11.3%	+49	+23.2%
金融市場	売上収益	544	14.8%	370	10.9%	-174	-32.0%	430 ➡	400	11.1%	+30	+7.9%
	営業利益	78	14.5%	39	10.5%	-39	-50.0%	45 ➡	33	8.3%	-6	-15.6%
流通･交通市場	売上収益	697	18.9%	576	17.0%	-121	-17.4%	680 ➡	660	18.3%	+84	+14.5%
	営業利益	87	12.5%	0	-	-87	-	15 ➡	5	0.8%	+5	-
遊技市場	売上収益	277	7.5%	210	6.2%	-67	-24.2%	190 ➡	180	5.0%	-30	-14.6%
	営業利益	77	27.9%	51	24.3%	-26	-33.8%	29 ➡	32	17.8%	-19	-37.5%
その他	売上収益	70	1.9%	77	2.3%	+7	+10.0%	60 ➡	60	1.7%	-17	-22.1%
	営業利益	-3	-	-3	-	0	-	-9 ➡	-10	-	-6	-
合 計	売上収益	3,686	100.0%	3,395	100.0%	-291	-7.9%	3,600 ➡	3,600	100.0%	+205	+6.0%
	営業利益	420	11.4%	297	8.8%	-123	-29.3%	320 ➡	320	8.9%	+23	+7.6%

為替レート	ドル	153 円	151 円	2 円の円高	150円 ➡	155 円	4 円の円安
	ユーロ	164 円	175 円	11 円の円安	170円 ➡	180 円	5 円の円安

海外地域別売上収益

［IFRS］

億円	通　期									
	2025年3月期	2026年3月期	前期比		米ドルベース増減率	2027年3月期予想		前期比		米ドルベース増減率
			増減額	増減率		2026/5/13時点	2026/11/10時点	増減額	増減率	
米州	1,008	989	-19	-1.9%	-0.7%	1,030 ➡	950	-39	-3.9%	-6.6%
内 GGS	875	889	+14	+1.6%	+2.8%	885 ➡	845	-44	-4.9%	-7.5%
内 Acrelec	63	51	-12	-19.0%	-17.9%	70 ➡	55	+4	+7.8%	+4.3%
内 Flooid	70	49	-21	-30.0%	-28.4%	75 ➡	50	+1	+2.0%	-2.7%
欧州	900	1,000	+100	+11.1%	+12.5%	1,030 ➡	1,150	+150	+15.0%	+11.8%
内 GGS	453	487	+34	+7.5%	+8.8%	510 ➡	590	+103	+21.1%	+18.1%
内 Sitrade	166	200	+34	+20.5%	+22.2%	180 ➡	200	0	0.0%	-5.7%
内 Acrelec	231	256	+25	+10.8%	+12.1%	270 ➡	300	+44	+17.2%	+13.8%
内 Flooid	50	57	+7	+14.0%	+15.6%	70 ➡	60	+3	+5.3%	+1.0%
アジア	191	170	-21	-11.0%	-10.0%	180 ➡	200	+30	+17.6%	+14.2%
内 GGS	154	150	-4	-2.6%	-1.3%	155 ➡	175	+25	+16.7%	+13.2%
内 Acrelec	37	19	-18	-48.6%	-45.9%	25 ➡	25	+6	+31.6%	+21.8%
合　計	2,100	2,160	+60	+2.9%	+4.1%	2,240 ➡	2,300	+140	+6.5%	+3.5%
内 GGS	1,481	1,526	+45	+3.0%	+4.2%	1,550 ➡	1,610	+84	+5.5%	+2.7%
内 Sitrade	166	200	+34	+20.5%	+22.2%	180 ➡	200	0	0.0%	-5.7%
内 Acrelec	332	327	-5	-1.5%	-0.1%	365 ➡	380	+53	+16.2%	+12.8%
内 Flooid	121	107	-14	-11.6%	-10.1%	145 ➡	110	+3	+2.8%	-0.7%

実績為替レート						計画為替レート				
	ドル	153 円	151 円	2 円の円高		150円 ➡	155 円	4 円の円安	ドル	
	ユーロ	164 円	175 円	11 円の円安		170円 ➡	180 円	5 円の円安	ユーロ	